

萌えレス24
アマゾン・ワールド

死闘メガネっ娘3

地味ッ娘
秘めレスリング2

はじめての **前編**
せっくす勝負

@パラレルワールド 二人ともメガネをしてない世界 2 試合収録

Meto

メガネっ娘対決

<プライベート・しーくれっとレスリング>

メガネっ娘対決 委員長同士

モモ vs アミ ~えっちくらべ 前半戦~ p.3

<パラレルワールド編> ふたりともメガネをしていない世界

いけない放課後

もっと♡ひみつのプロレスごっこ 前編 p.106

惑星アマゾニア

幾つかの王国が存在する平和な世界である。

女性型生命体だけが生息し、独自の文明が築き上げられていた。王家・王族や貴族が庶民のために繰り広げるレスリングは、娯楽と同時に、見るものに医療効果をもたらしたり、活力、活気を与えるものだった。

レスリングは当然、王族や貴族達のものではなかった。大衆、庶民、誰もがたしなみ、公的に、或いは私的に、日々さまざまな形でのレスリング大会やプライベートなレスリングが行われていた



委員長同士

モモ vs アミ

えっちくらべ
前半戦





モモ 86-58-88 158cm 58kg
泣く…まで…やります。でも、泣いても…許してあげない…です」



アミ 88-60-90 160cm 56kg
「悪いコになります。泣かせます。でも、泣いても許してあげません」

「わるいコになります」

授業や普通の試合じゃできないこと、やらせて！
初対面出会った「優等生」の委員長同士。
普段の試合では隠していた思いを
思うまま相手にぶつける2人。



普段は絶対、こんなことできない。
反則だってわかってやっちゃえるって、さいごー！

当然、ワザだって！
相手が悶絶するまで…



泣いてギブしたってはすしてあげない。
ゆるしてあげない…♡
日頃の不満を思いっきり解放するふたり



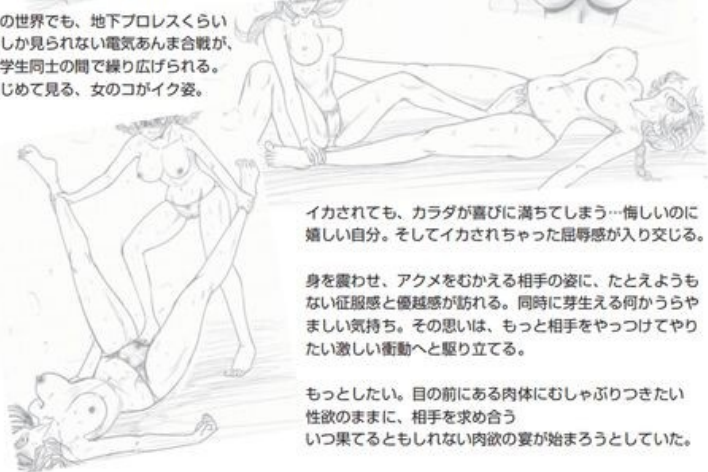
闘いながら頭をもたげくる
欲情。みだらな衝動のままに
闘う中で、はじめて経験する
オルガスムス。



委員長同士のホンキ…
規則を守る、まじめな優等生同士の間で繰り
広げられる「無法試合」。
「ルールの制約」から解き放たれたふたりは、
発情期のメスのように己を解放し始める。



この世界でも、地下プロレスくらい
で見られない電気あんま合戦が、
女学生同士の間で繰り広げられる。
はじめて見る、女のコがイク姿。



イカされても、カラダが喜びに満ちてしまう…悔しいのに
嬉しい自分。そしてイカされちゃった屈辱感が入り交じる。

身を震わせ、アクメをむかえる相手の姿に、たとえようも
ない征服感と優越感が訪れる。同時に芽生える何かうらや
ましい気持ち。その思いは、もっと相手をやっつけてやり
たい激しい衝動へと駆り立てる。

もっとしたい。目の前にある肉体にむしゃぶりつきたい
性欲のままに、相手を求め合う
いつ果てるともされない肉欲の宴が始まろうとしていた。

ん…
のし、のしと、馬乗りになった相手の
肉体を味わうようにカラダを揺す
るモモ。
容赦なく股間を蹴り合い、乳房を相
手に押しつけてはじめて体験するオ
ルガスムス。電気あんまをかけ合っ
た股間と、乳首と、下腹がうすくよ
うに熱い。

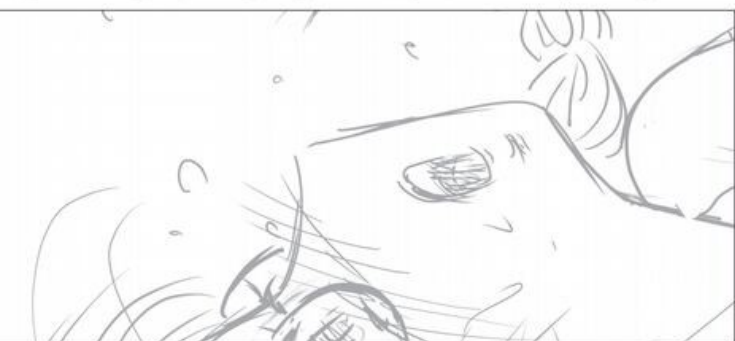


舌しげにあえく相手の顔が、まるで挑
発してくるように思える。

「まだ… まだ…だか…ら」
組み敷いたアミがうめくようにいう。
もうやめて
それも本心だった。
しかし、口をついて出るのはもっと求
める言葉だった。
もっとほしい もっとしたい
もっと…してやりたい…！
相手の心の声が聞こえるわけでもない
のに、それはモモもまったく同じだった。

はあ はあ…
自分の呼吸が荒くなっている。
ひとりHするときとおなじ…
むしろ、それ以上の…羞しい性欲の衝
動を味わいながら、モモは舌なめずり
をしてカラダを前にかがめた。





「アア ああ〜〜ン！」
おっきいおっぱい…！
ふわふわ…
組み敷いた相手の乳房を…
揉みほくして…やるなんて…
…巨乳の同級生や、対戦相手とのレスリングの最中、
そのおっぱいをわしづかみにしてやりたい衝動に駆
られたことはあった。
今日の試合…ん..試合じゃないな…
決勝こっこ？
最初に向かい合って、この地味なムードのくせに、
立派なおっぱいを目にしたときから、実はこうする
ことを夢見てた。
揉みだしているうちに
少しずつ重たいような、手応えが強くなってくる。

「ああ、う…やあ あはう、うん…！」
闘いの時の悲鳴とは全然違う。
イキそうなときの…あえぎ声♡
指や手のひらに当たる乳房がコリコリになってくる。
…やだ、あたしち…興奮してくる..じゃん…



も..ももさん... あ...!
激しいのに、やさしいモミモミ。
一瞬痛い..そしてすぐ、ものすごく気持ちいい...
人におっぱいを揉まれるなんて、初めてのことだ。
乳房が硬くなってくる
顔が熱い。おなかの奥も、股間も熱くほてってくる
感じ。そして、なんかとろけそうに気持ち良くなっ
てくる。
「くひ...!!」
アミは必死に歯を食いしばった。
今にも、イっちゃいそう...!



「や...だめ...あ、ああ ~~~~~!!」
アミのからだにぶるぶると震えが走った。

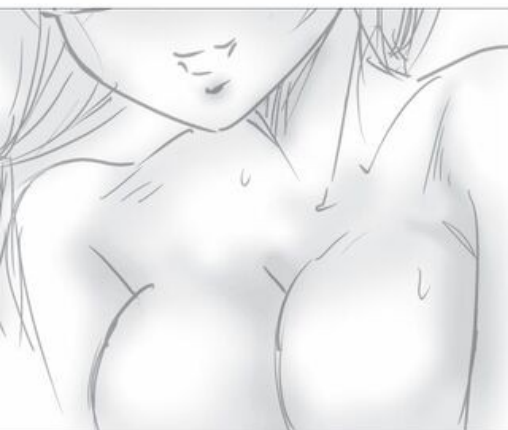


やだ... オルガ... ちゃん?
おっぱい揉んだだけで.....!
揉みだしていた本人も、相手の
可愛い、色っぽい声に、すっかり
カラダがうずいていた。





「ああ、もう いやん あ…!」
なおも責められ、悶えるアミ。



もうろうとしたアミの視界の前で、むき出しになった相手の胸が目に入る。無防備に揺れ、柔らかく弾んでいる乳房。



むんずつとばかりに、モモの乳房が下から持ち上げられた。



「ああん」
ヤル事に夢中で、完全に無防備
だった。
責めながら「欲しくなっていた」…
ピンカンになってた乳房。アミの
両手が添えられただけで、はじける
ような刺激が駆け巡る。
ふるうると、一瞬でオルガスム
スをに身を震わせるモモ。
ぎゅうっと、相手の乳房を握り
しめ、そのまま負けるもんかとモ
ミモミ続ける



「くあ..あふうう〜！」おっぱいを揉みしだかれて、アミも悶え、必死に首を振っていた。



「あん あん ああ〜 ああ〜〜！」互いにおっぱいを揉まれて、ふたりの可愛い声が絡みあうように響きわたる。

「んあ あふ あふ」「ん んあ…! んんあ…」
互いのおっぱいを夢中になって揉み合うふたりの委員長。

相手の指が乳房に食い込み、乳首をつまんでくる。
電流にうたれたように体中に快感が走り、手がとまる。
ああ 気持ちいい…! こいつ… 再び攻撃を再開すると
「はうう…」ぐうんと相手のカラダがのけぞり、攻撃がやむ。

んふ ん あん あふ…
もう、ガマンしたくない気持ちの良さをこらえながら、
責めなきゃまけちゃう…!
互いに胴体をかこばさみして、締めつけ合うせめぎ合いより、
なんかもっと負けたくない気がする…
いつの間にか、ふたりとも泣きながら相手を責めていた。



「くあっ ああ..」「ふうあ! ああ..ん!」
ほとんど同時にふたりの声が上がリ、股間からびゅっと
液体が噴き出した。ふたりの体が快感に震える。
おっぱい揉みあってただけで…! 潮吹きしちゃった…
すこく恥ずかしい思いと、悔しい思いと同時に、このコ
震えてる…なんか「ひとつになった」ような、愛しい思い
がこみ上げてくる。
ステキな引き分け。互いに抱きしめ合いたい衝動にから
れながら、まだ…勝負、つけないや…!
初々しい二人のセックスバトルの幕開けだった。

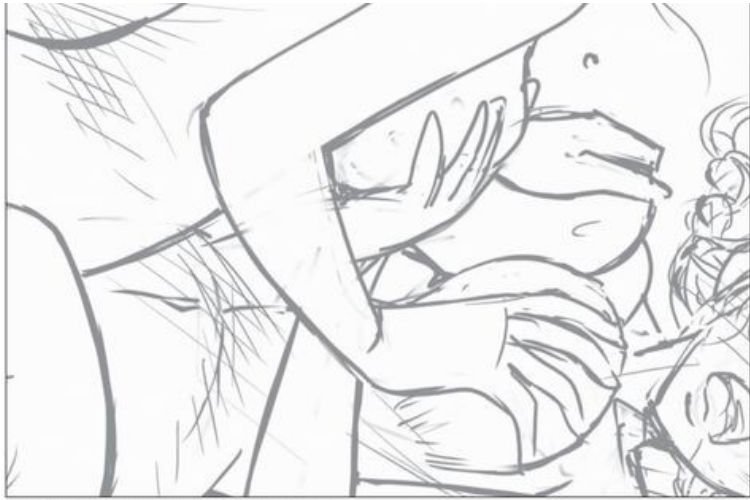


「ん……」
あそこがうづく…
イッたばかりで、すぐさま次の欲望
が芽生える。
やりたい……！
ももは、火照る股間が求めるまま
に、自分のおそこをアミのそれに
近づけた。アミさんのおそこも熱
い熱を放ってる…



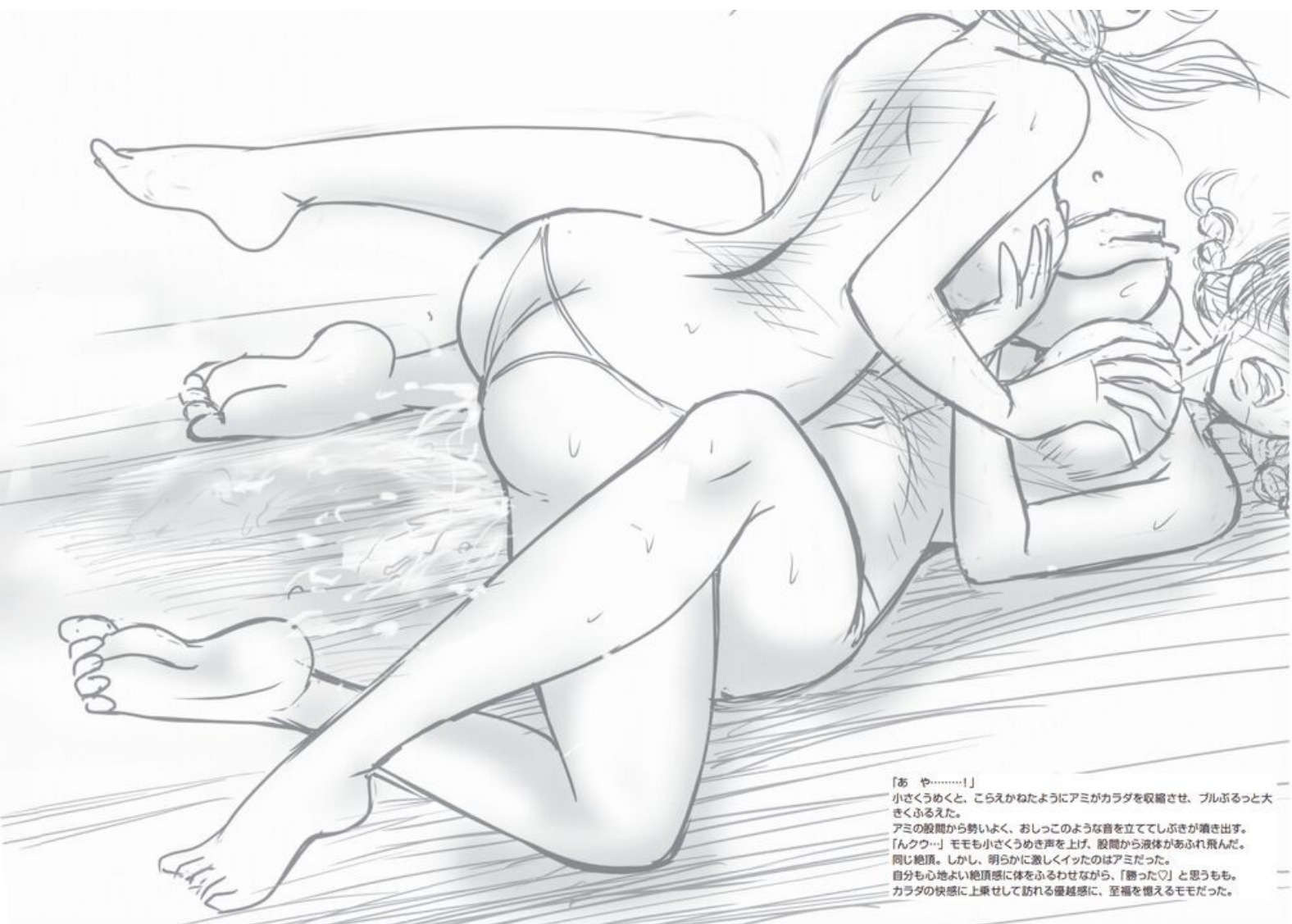
「あ、…ひ…！」
濡れた股間に、柔らかな肉が
ぐにくくと押しつけられてくる。
イッたばかりのカラダに電流の
ように気持ちいい刺激が走り、
アミは小さく悲鳴を上げてカラ
ダをのけぞらせた。





二人の細い指が、互いに相手の乳房を揉みし抱き合う。
モモが上から股間を押つけて揺さぶってくる。しかし、アミも下から突き上げ、同じようにぐりぐりと責め返していた。





「あ や……！」
小さくうめくと、こらえかねたようにアミがカラダを収縮させ、プルぷるっと大きくふるえた。
アミの股間から勢いよく、おしっこのような音を立ててしぶきが噴き出す。
「んクウ…」モモも小さくうめき声を上げ、股間から液体があふれ飛んだ。
同じ絶頂。しかし、明らかに激しくイッたのはアミだった。
自分も心地よい絶頂感に体をふるわせながら、「勝った♡」と思うも、
カラダの快感に上乗せして訪れる優越感に、至福を覚えるモモだった。



幸せそうな表情を浮かべ、悶絶したアミの姿を見下ろして、舌なめずりするモモ。「この口を、もっともっと蹂躞したい」
性欲を根っこにした淫らな欲望が、カラダにあふれてきていた。



「アミさん、これで終わりなんて、おもってないですよ」
後ろから豊満なアミの乳房を抱え上げ、揉みしだきながら語りかけるモモ。
貪欲なおさげの委員長が、三つ編みの委員長をもてあそびにかかっていた。





「ああ、や、っやめ… また…
イク いっちゃー…!!!」
泣き叫ぶ、というより、小さな声で囁くようにうたえるアミ。
小刻みにまた体をふるわせる。
「ん、何度目のオルガちゃん、ですか?」
相手の乳房をもてあそび、揉みしだきながらモモが語りかける。
相手の肉体を感じ、くっついているだけでも気持ちがいい。





「どうして逃げないんですの？」
身をよじらせて、よがるアミを執
拗に責め立てながら、自分も真っ
赤に顔を紅潮させているモモ。
優しく、激しく、そして乳首を指
で挟んだり…。そのたびにアミが、
可愛くうめき、あえぎ声を上げる。

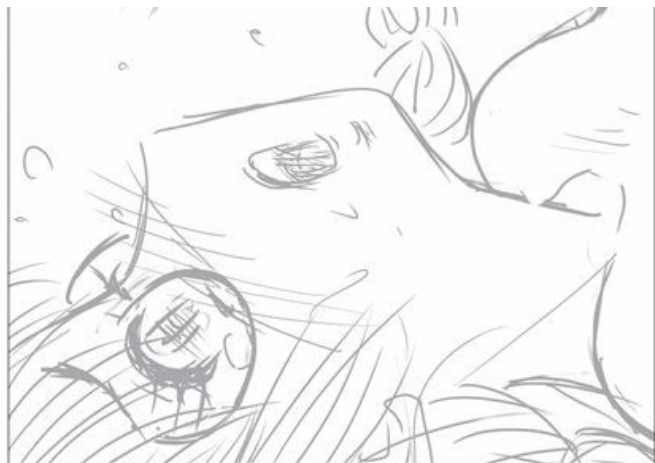


また…いっちゃった…



はあ、はあ、あみさん...寝れました?」
相手の女性器に手をあてがい、柔らかく揉み、ぐりぐりともてあそぶモモ。
「や、やだ、やめ、やめてください!!」
足をばたばたさせて叫ぶアミ。
このこつたら、ホンキで、抵抗してない...
「欲しがり屋さんの、す、け、べ 委員長さん♡」
もう、ずーっつと、いじめて...あげる
モモはつとワレメに指を滑り込ませ、そのまま貴め立てた。
「あ、ああ~~~~~!!」



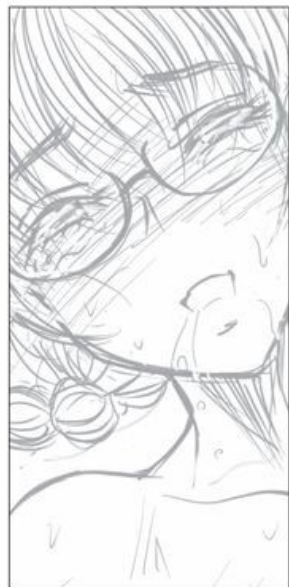


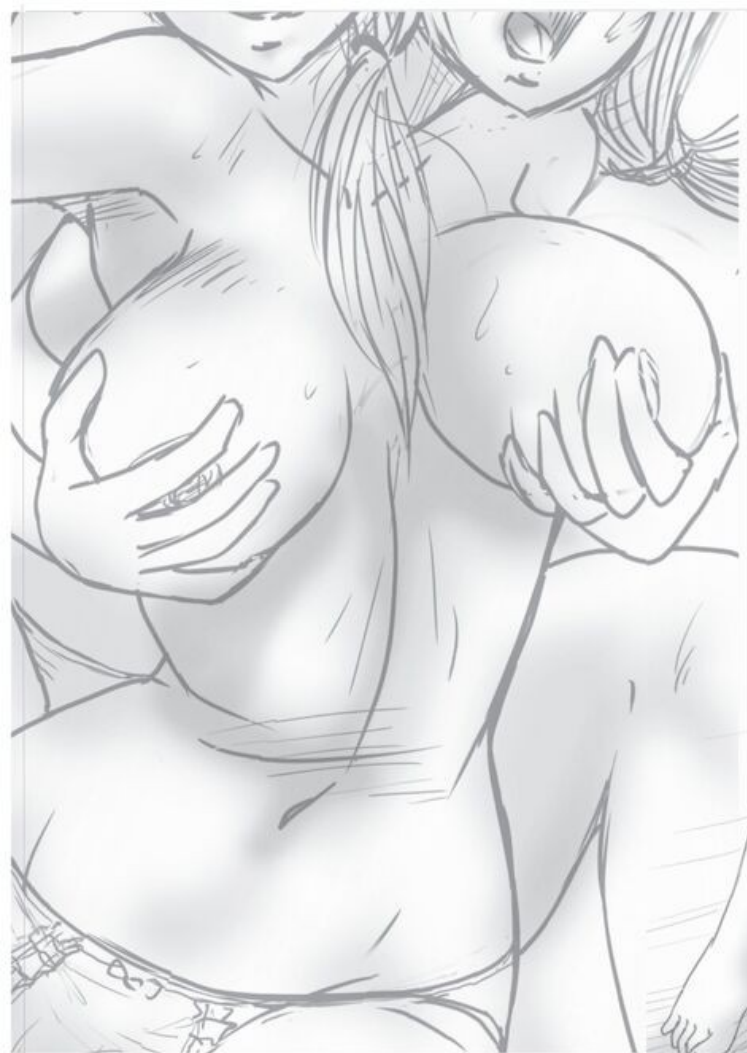
あ..また...!

D



なんか、壊れた噴水みたい...♡





きゃあん!

突然の反撃だった。

ほとんど一方的に責め続けていたモモの肉体は、意識と気持ちとは裏腹に欲しくてたまらなくなっていた。

現実的に「揉まれ慣れていない」モモのおっぱいはアミの手のひらと指を待っていたように反応し、一瞬で全身に快感の波が電気のように駆け巡っていた。





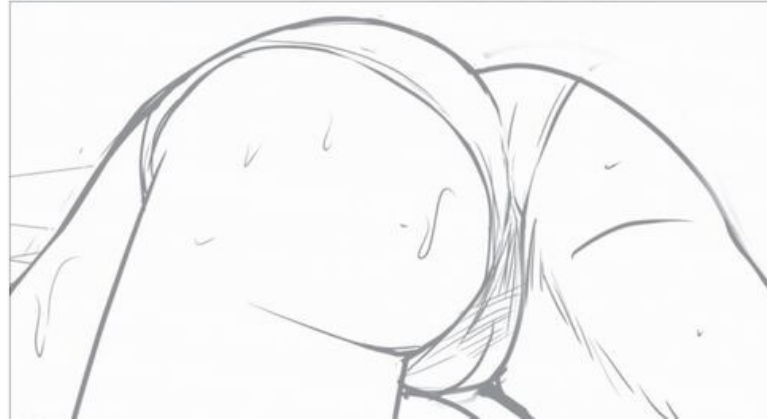
「んあ あ...!」
モモも肉体がビクンビクンとうねり、股間がだらしなくギブアップ
の液体を吐き出した。



後ろから覆い被さるようにして、
なおも相手の乳房を責めていくアミ。



「ん、うん、..」
「あ、や、ああん や やめええ...!」
2人の可愛い声が交互に上がる。
モモのそれはツザをしかけられてあげる「苦しい」のうめき声とは明らかに異なっていた。
妖しげな、「感じてる乙女」のあえぎ声。それは、いっそうアミを駆り立てた。





あ、あん 案ん あん!
股間をさすりながら、ワレメに沿って指を食い込ませていく。
そして、抜いたり入れたり…びくんびくんと反応して、突き
上げられるお尻が股間に当たって気持ちイイ。
普段は超まじめな委員長同士が、犯しあっていた。



いや、だめえ
また またいく
いっちゃん…!
ぶるぶるぶるっと体をふるわせ、
だらしなくオルガスムスむかえるモモ。





「...もうや、やめてアミさん!
お願い もう...」
ガマンできないように首を振り
ながら、モモがうったえた。





手のひらの間から、再びモモの体液があふれ出す。
熱い肉体が、びくびくとふるえている。
何とも言えない征服感。
苦しい闘いの末に奪うギブもいいけれど、
これって、何かすごい充実感…
ふるふると伝わってくる相手の震えが、なん
かどうにも愛しく思える。
口でなく、カラダにギブっていわせてる…
すごく新鮮な幸福感がカラダを満たしてる。

謎阿、されるがままになっちゃった方が
負けね…!

話には聞いていたSEXバトル。
まさに究極のデスマッチ…!

体力、性欲
…むしろ深力
深らな方が、勝ち…♡

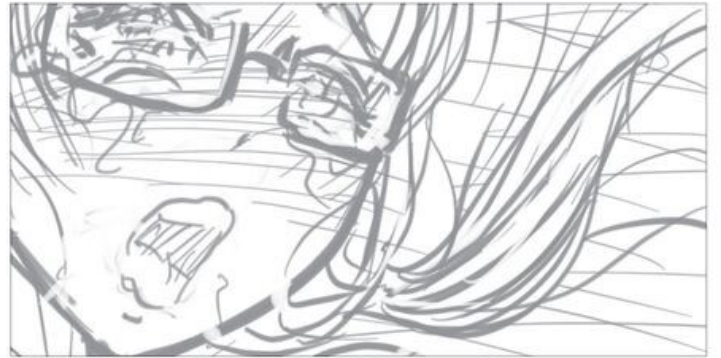
アミは、負ける気がしなかった。





口に含んだ乳首を吸い、舌でもてあそぶ。
それから、軽くカミ!

「はうらう〜」
モモがまた、小さく体をふるわせる
何度目の絶頂かな?
結構、回復が早いみたい…



ちゅばちゅばと、モモの乳首を責め立てるアミ。
モモのもう片方の乳首が、求めるようにそり立っている。でも、
そっちは触ってあげない♡
天然にいじわるだった。
じらし責め。
それでいて、下乳に再入れた右腕で、乳房を刺激してやる。
「ああ あん ああん…」
力がぬげちゃう… ああ…またイクウ…

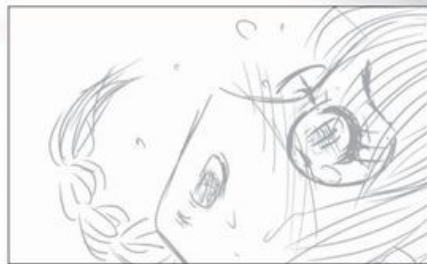




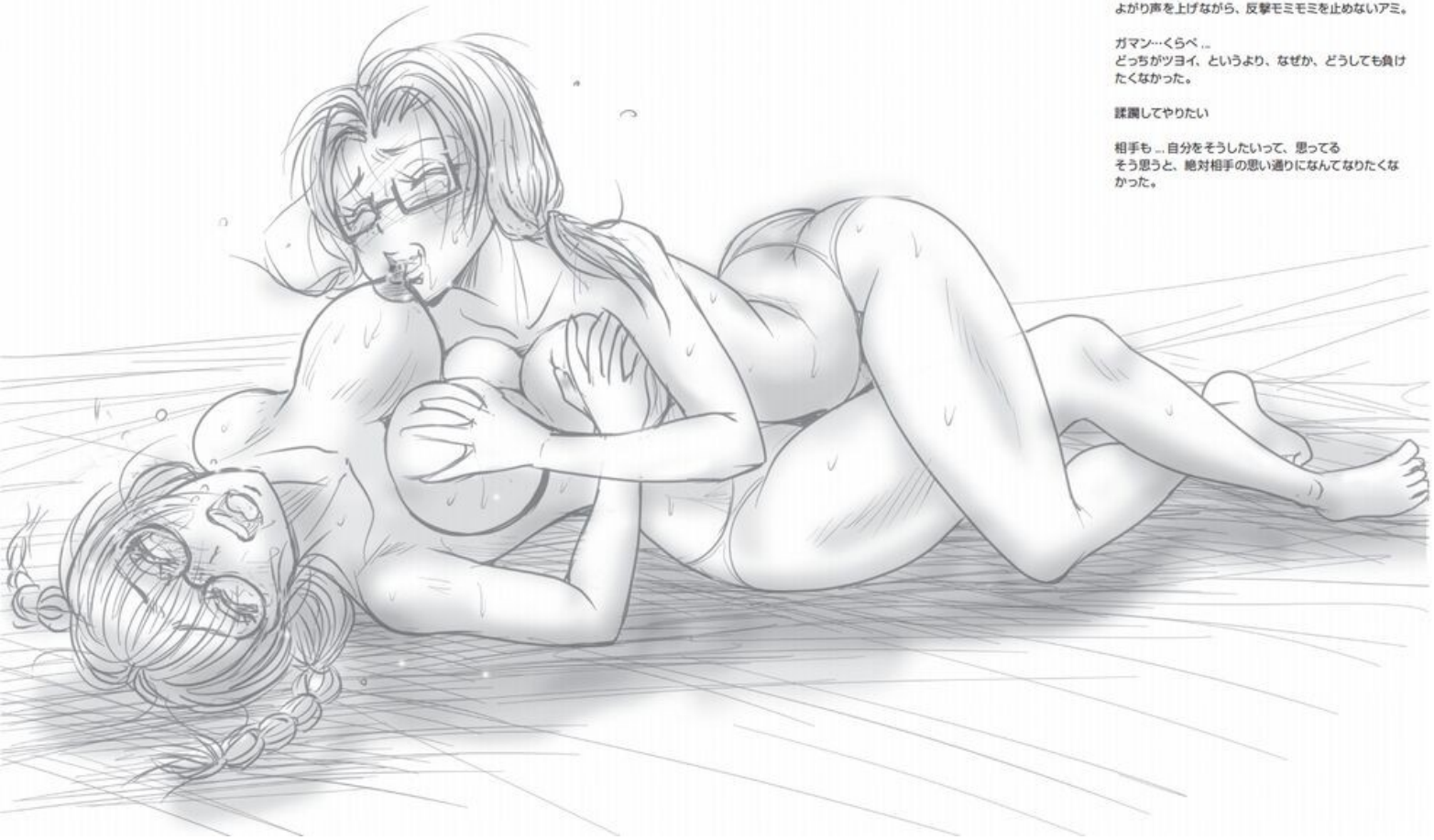
「えい♡」
とどめ、とばかりに股間同士をぶつけるアミ。
ぐにゅっとワレメがひしゃげ、天国に行っちゃい
そうな刺激が駆け抜ける。
これでまた、吹いちゃうはず♡
しかし、何も起こらなかった。
「…!? いかない? こらえたの?」
さらに腰をふって押しつけていこうとした瞬間
だった。



ぐるんと、2人の体制が入れ替わった。



「んん〜〜」
「あ〜〜〜！ 痛い、やめっ」
マウントをとったモモの攻撃が始まっていた。
互いに、あいている手で相手の乳房を揉み合っている。



イク寸前にガマン…なんてはじめて…
一度だけ、オナニーしてるときに地震が来て…
左の手のひらにアミの乳首が当たっている。
アミも、揉みながら指の腹で乳首を挟みつけてくる
「……！……」
イカされるのも、イイ…
でも、いかされればなしは、やっぱり悔しい…
乳首をくわえたまま、顔をふってやる
「あん あひ…いん」
よがり声を上げながら、反撃モモミを止めないアミ。

ガマン…くらべ…
どっちがツヨイ、というより、なぜか、どうしても負け
たくなかった。

蹂躪してやりたい

相手も…自分をそうしたいって、思ってる
そう思うと、絶対相手の思い通りになんてなりたくな
かった。

自分を制した方の…勝ち!



熱い股間が、まるで乳首と直結しているみたいにうずく感じ…。肌と肌、肉と肉がすれ合い、動くだけでも振動でいっぱいそう…



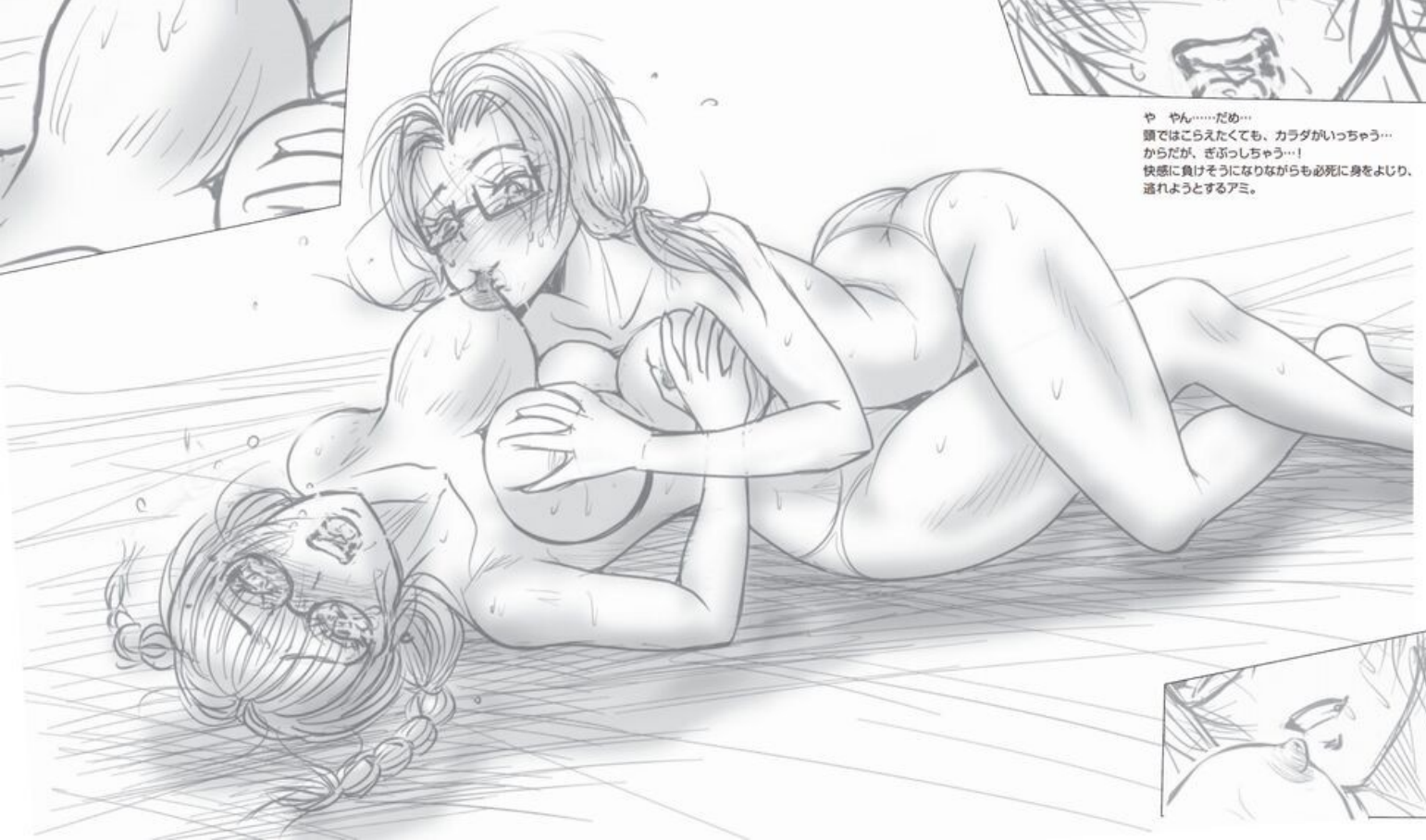


ん、ん…んちゅ…
あ、あ……！
ブルぶるとアミの肉体にアクメのふるえが走った。
実は、モモももう、何度も小さくイッていた。
目じりから涙を流している。

かぶ…くい くい…
「はうー！」再びモモがカラダをのけぞらせる。



や やん……だめ…
頭ではこらえたくても、カラダがいっちゃう…
からだか、ぎぶっしちゃう…！
快感に負けそうになりながらも必死に身をよじり、
逃れようとするアミ。



「ああ〜ん、あん、ああん！」
モモがよがり声を上げていた。
くわえ直そうとして、アミの乳首から口を離した瞬間を、
アミは見のがさなかった。
体制を入れ替えることの成功し、下から攻める。

乳首って、利くのよね〜
先に相手の乳首をくわえ、乳首責めをしかけたのはもともとアミだった。
お互いに、くわえられたただけでもいっちゃいそうなくらい、
感度のいい2人だった。





「ん、ん…」
「あん! ああん!」
せめぎ合いでこらえていた分、感じるでしょ…
モモの可愛くて濃いあえざ声が聞こえる
相手のカラダのケイレンが伝わってくる。
んふ…またいっちゃってる…



「ああ～ あ、 ああ～～!」 負けないから…まけないから…!
耐えかねるように首を振り、甘いよがり声をあげながらもモモの「戦意」は途切れていなかった。

「ん…！ ク…」

「んん…ちゅ…」

どちらかがせめぎ合いを制し、生まれるわずかな「優位の安堵」。

そのたびに2人の立場は入れ替わっていた。

「責め疲れ」のちょっとしたインターバルで、ゆっくりした動きの2人が妖しく絡みあうと、どちらかが相手にとらえられていた。



アミさんの秘部……

丘の曲面、その柔らかいふくらみを味わいながら、スジを楽しむ。一気に指を滑り込ませたいけれど、じらす。うふ、もうほしくてビクビクうずいてる.. そのくせピンカンにカラダが反応するのがそる。可愛がってくれたお礼の応酬。

「ん、クウン…！」

アミの口から、小さく可愛いうめき声もれる。



うふ…がんばるわね… がんばって！
ガマンすればするほど激しくいっちゃう
のは、体験済み…

相手が身動きできないように抑えなが
ら、モモは乳首責めと股間愛撫をしかけ
ていた。スジに添って指を滑らせ、イレ
そうで入れてあげないしらし責め。感じ
てびくびくと身をよじらせる相手を遠
がさないようにぎゅっとおさえつけては、
アミのほてった、丸くて柔らかい股間の
感触を楽しむ。



「んん…！ くう…！」
アミの口からこらえかねるように
切ないうめき声が漏れる。

そそれちゃう…！
モモはくわえた乳首をくわえ直し、
前で優しくこき上げた。



「や、やあー！
だめえ~~~~~」
麻れる肉体が激しくブルブルと震え、
ふしゃあぁっつと、激しく「射精」するアミ。

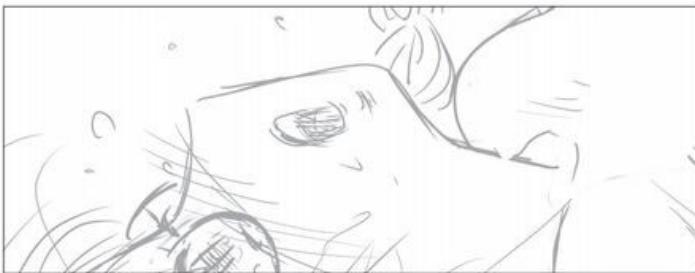


あたしも気持ちよくしてもらおうかな...

相手のあえぎ声を聞いて、イク姿を見ているだけで、自分もむらむらと、激しく情欲がかき立てられる。



女の同士をくっつけるって...すごく気持ちいい。互いのあそこが近づくだけで、互いの暑さを感じられるほど2人とも股間を熱くほらせていた。



うまく重なるように乗っかるのって、意外と難しい。ちょっとカラダをずらして、あそこに体重がかかるように...

「ん...」 「アン..」
2人のくちびるから可愛い声が漏れる。抑えつける方も抑えつけられる方も、「相手のあそこに責められるッ」
相責め(あ・い・せ・め)♡

はあ、はあ、はあ...
息がどんどん熱くなっていく。このとろけそうな感じをアミさんち...
そう思ったら、相手より先にイクわけにはいかない...!

今にもイっちゃいそうなのをガマンして、モモは密着させた股間をぐりっごすりつけた



レスリングで組んずほくれつして
マウント取り合うのもすごく興奮
するけど、すぐにもイキたいのを
ガマンするって..

「ん..んんっ」

大きなおっぱいをぶるんぶるん
と揺らして、相手の股間に自分
の股間を押しつけたまま、腰を
振るモモ。

「はう~~~~！」

イヤイヤするように首を振り、アミはの
三つ編みを振り乱して叫んでいた。
大きな乳房がモモの動きに呼応するよう
に激しく波うつ。

じゅうりん..されてる... 対等の... 互角
の相手に...! まるで、犯されてみたい
に...!

イク...逝っちゃいそう...!

でも... また...

このまままたいっちゃう...のはイヤ...

淫靡な勝負が本格的に始まっていた。



「んん~~~~~！」

「んあ ああん あん！」

下になったアミが腰を突き上げる。

モモの股間も負けじと上からねじ伏せるように押しつけてくる。

ふたりの秘部がぐねぐねとゆがみ、耐えかねてあふれ出す液体が
水滴になってふたりの股間まわりに四散していた。



ガマン…できない…



あ…だめ…



「……………」
激しくこめていたふたりの
動きが止まり、ふたりの肉体に
ぶるるっと小刻みなふるえ、ケ
イレンが走った。



ああん… また…負けちゃった…!
激しく息をつきながら、快感に敗北感を味わうアミ



ああ…しいい……キモチ…
この体勢で迎える絶頂って…
互いのあそこがヒクヒクしてる

犯しちゃった感じ…?

なかば、前に倒れ込むようにカラダを
前に倒すモモ。ふたりの熱い乳房が重
なり、乳首が相手ののやわらかい肉に
食い込んでいくのがわかる。
心地よい満足感と同時に訪れる、それ
は「試合続行」-「新たなラウンド開始」
のゴングだった。



「ああん あん あん あん！」
上になった乙女のお尻の動きにあわせて、さえるような
甘いうめき声上がる。

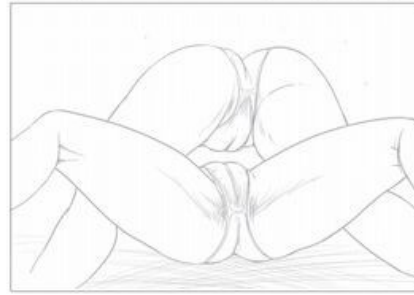
丸くふくらんだ丘と丘、ワレメとワレメを押しつけ、ぐりぐりぐり... そうしているだけで、もうやめられないくらい気持ちがいい。

こんなさもちいいこと
こんな気持ちいいモノ

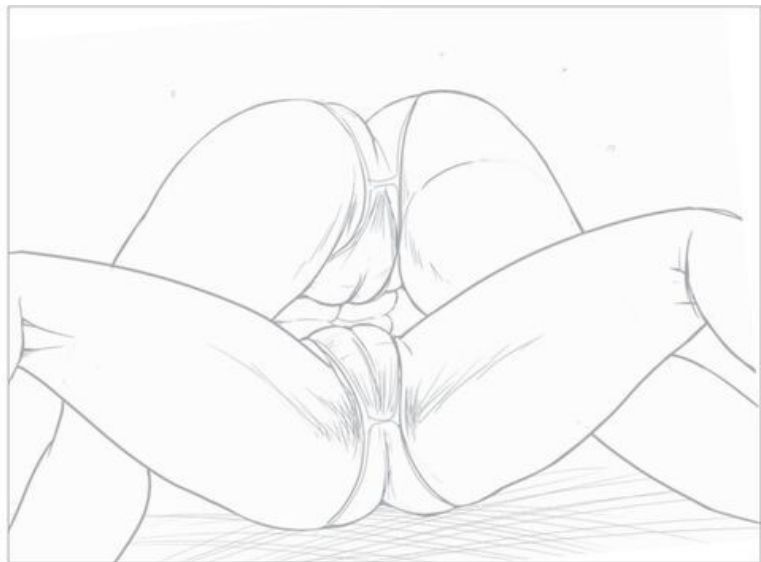
モモは文字通り相手の女のコを夢中でむさぼっていた。



ばくばくとワレメ同士が互いをなぞり合い、いつの間にか盛り狂って突き出したツノとツノが激しくつばぜり合いを繰り広げる。



ん…んん!
ひゃうう!
腰を持ち上げ、自分のあそこ
を相手のあそこに打ちつける



「んっ!」「きゃん!」
可愛い声だけでも猛ってイキそうだ。



何度も何度も繰り返すモノ。顔突き合戦ならぬ
自分のおそこを相手のおそこを叩きつける
「前丘突き合戦」。
顔突きでも、両方に想像を絶するダメージがあ
るものだが、これに至ってはすぐにもふたりそ
ろって昇天してもおかしくない破壊力だという。
地下レスリングの試合でもこの応酬は、めった
に見られない。



んあ あ、くあ ああ、ああ…!



ん… (やだ、このコ…どんどん漣しく… そんなにうごいちゃ…)



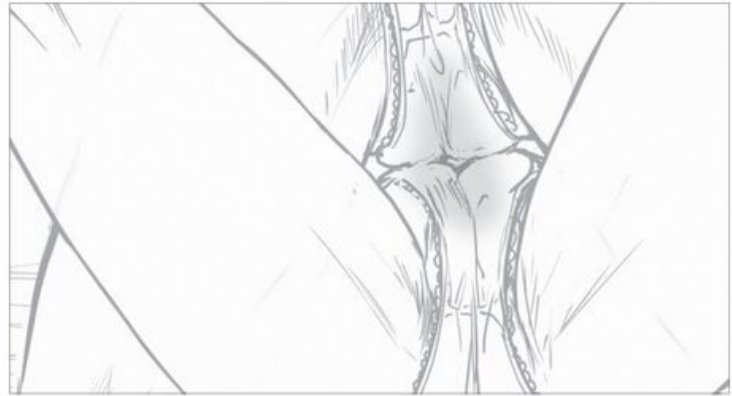
股間が、乳房が、そして乳首と乳首が狂おしい組み付きを繰り広げる。



「ああ も、モモさん ああ ア!」
「……! ア… アミさ.. ンん! イヤ..」
びゅッ ぶしゅっというような音がして、
二人の股間から噴き出す液体。
びくびくと上になってるおさげの体が震え、
大股開きで抑えつけられたおさげ嬢の白い脚が
宙を舞るように激しくケイレンした。



「んああ」イキながら下から突き上げ、揺さぶってくるアミ。
「ふあ…ん」モモも、当然のようにおっぱいをゆさぶり迎え撃つ。
腰を振り、上から抑えつけるように貫め立てる中、モモが動きを止めた。
「あ…あ…！」
だめ…また…イ…イク…イっちゃう…
オルガスムスを迎えようとしたそのとき、アミは一気にカラダをひねった。

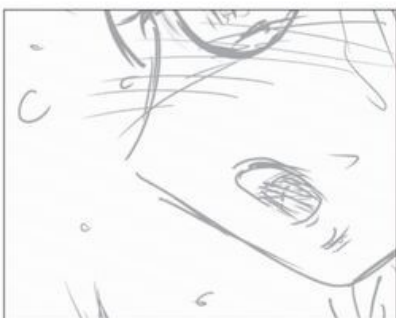


ゆっくりと、ふたりの体形が入れ替わる。

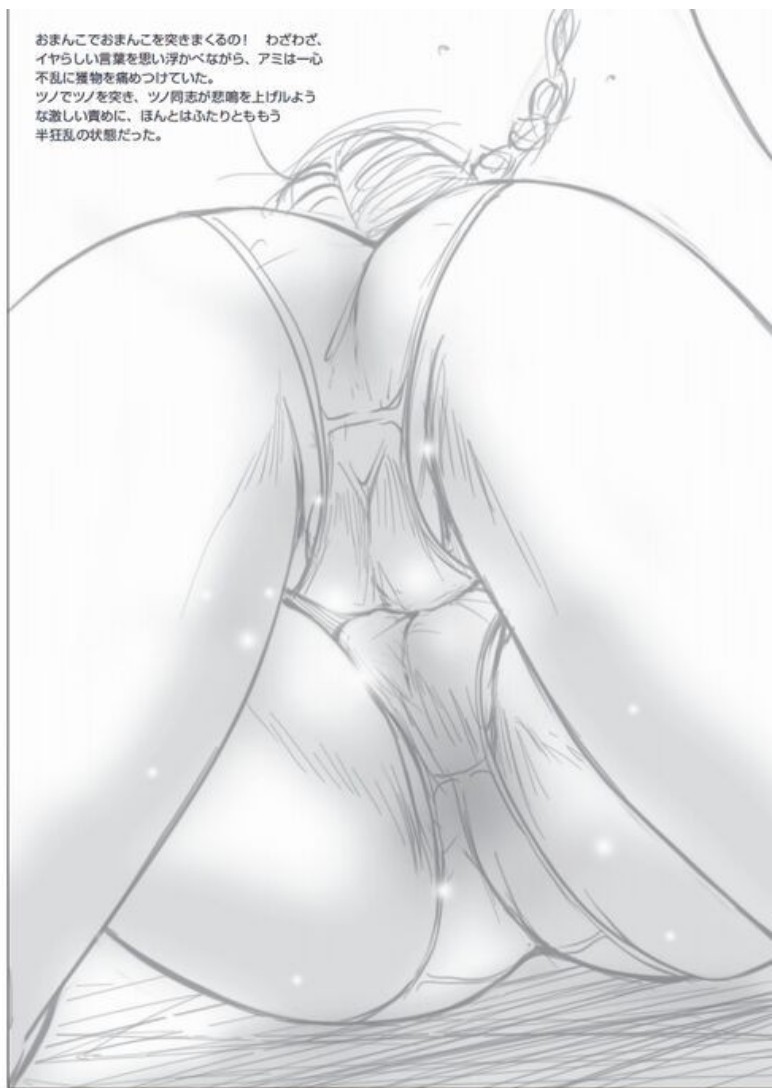




「ああー!」
体制が入れ替わる同時に、そのショックでこらえていたものを放出するモモ。



「くああ…アミ あみさあん…！」
「んっ ンン！ ンンん！」
あそこ同志を押しつけて、ねじ込むように委員長のお尻がいやらしく動き、相手委員長を襲う。



おまんこでおまんこを突きまくるの！ わざわざ、イヤらしい言葉を思い浮かべながら、アミは一心不乱に羞物を痛めつけていた。
ツノでツノを突き、ツノ同志が悲鳴を上げルような激しい責めに、ほんとはふたりとももう半狂乱の状態だった。

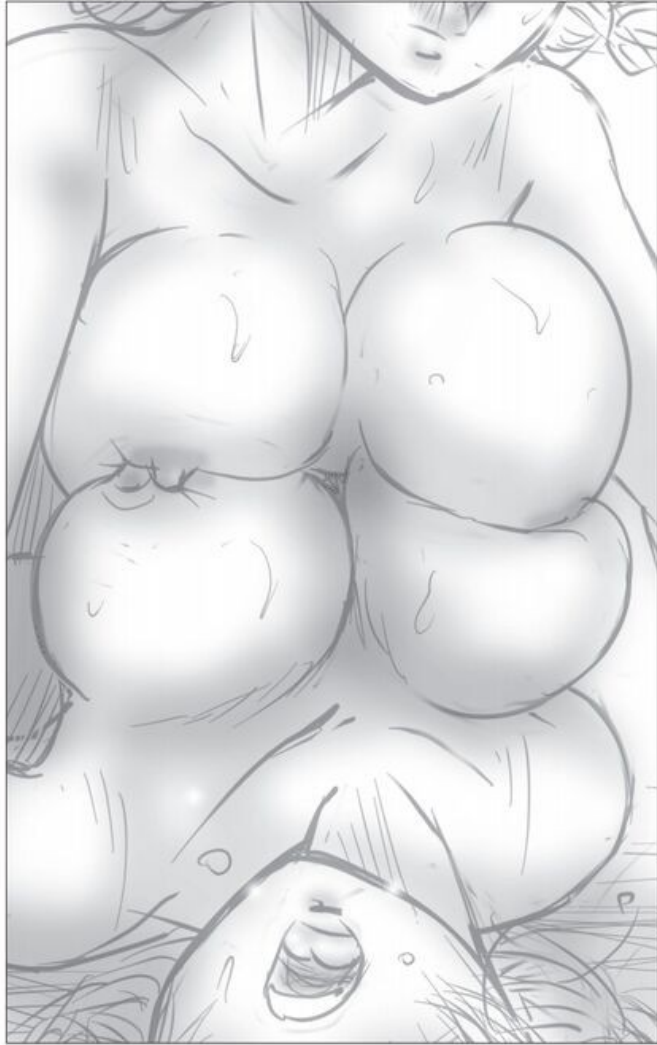
激しく責めてくるアミの胴体を、
モモの力強い両脚がしっとりと挟みつけた。
そのまま、ぎゅうううっと締めつける。



「や...ん！ ふう~~~~ん！」
腰を締めつけられ、カラダをオルガスムスにふるわせるアミ。



「あ...あふうう！」
抜いたばかりなのに...
締めつけたモモも、絶頂にのけぞり、
可愛いイキ声を上げた。

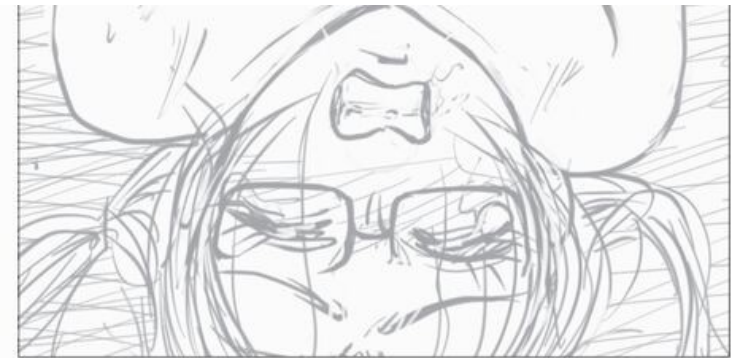


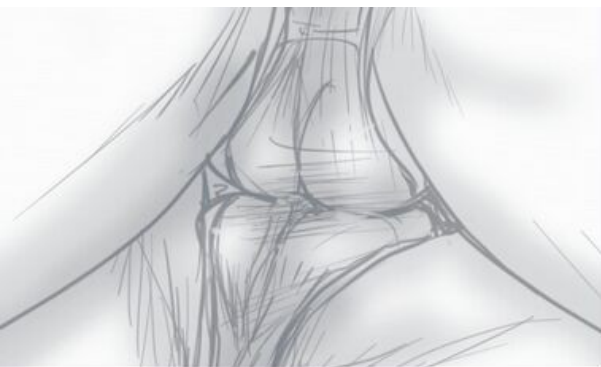
「んん あん ああ あ、あ、あ」
「はう ああ、ああ、あ」
腰を上下に振りながら、乳房でのしかかっていくアミ。
組み敷かれていると、どうして受け身になっちゃう。
上になったことで、一気に主導権を握ったばかりに、
相手に自分の肉体を思いっきりおしつけて、責め立てる。

「んん えい、えい、えい！」
「あ アウ アウ アア」
肉欲が暴走してる… 沸き起こってくる衝動のまま
尽きない劣情に身をまかせて互いを求め合うふたり



「ひいんん…！」 下から抱きすくめられ、アミが泣き声を上げた。揺さぶられる中に、オルガスムスのふるえが四肢を走りぬける。





頭の中が真っ白…
しかしほとんど無意識に、アミは腰を振り続けた。
犯してあげる おかしてあげるう！
ぐりぐりしあうあそこの感度の快感が、闘志を、性
欲を新たにかき立ててくる。
「ああん ああ あみ…アミさん…もお…やめ！
ああ」

一度は反撃に出たものの、再び両腕をだらしなく
伸ばし、相手の攻撃のされるがままにモモがもが
きながら叫ぶ。
小刻みなケイレンが、ふたりを交互に襲っていた。



【いあ ああ~~~~!!】

【おお~~~~!!】

賣っていた少女と、買められていた少女が、同時に絶頂を迎えてアケメ声を張り上げる。

一見引き分けに見えるが、上になった少女は、液体をまき散らしながらまだ腰を上下に振り、あそこを押しつけ合うのをやめていない。

アレが強い方の勝ち、という取り決めなんて当然無い。ただ、よりスケベな方が勝つ

生物としての生命力が強い方が勝つのは、自然の理。アマゾンでは、レスリングもこのセックス勝負の延長にある。

初めての「H勝負」を繰り広げるふたりの少女たちにとって、それが文明の根源に通じる行為だという認識はない。

原始的な肉と肉の交わりが生み出す深らな雰囲気は酔い、まさに夢中の刻を過ごしていた。

【どちらも、圧倒的に性欲が強い】
【めっちゃくちゃ、身体の相性が良かった】ことを知るのは、もっと後になってからだった。



めがねっこの優等生、モモとアミが「シークレット・システム」で出会い、お互い初対面の相手にはじめて自分の全てをさらした淫靡な「レスリング」を繰り広げていた頃、もう一つ世界でもリミッターをはずした「おんなのデスマッチ」が始まろうとしていた。

もも vs アミ：メガネっこの同士



アミ 87-59-91
159cm 57kg

モモ 88-56-90
161cm 56kg

まじめで地味な優等生、モモとアミ。レスリングの授業中での「我を忘れたデスマッチプレイ」をきっかけに、ないしょで意気投合した2人。今日も放課後、人知れず街のフリー・ブレイルームでひみつのレスリングを繰り広げていた。

いつものように、遠慮も気兼ねもいらぬ相手とのルール無用の「スパーリング」に興じるふたり。股間蹴りに逆エビ合戦、初めてかけ合う電気あんま。しかしこの日は、それはこれからの本番前の「前戯」にすぎなかった。

「朝までいい？」
それは、一線を越えることを意味していた。初々しい、しかしその分まったく加減を知らないケモノ同士の初体験が、今始まろうとしていた。



いけない放課後



もっと ひみつの プロレスごっこ

前編



「ん、しょっと♡」



朝までの約束だよな…♪
はあ、はあ と腰を振りながらアミ。
乳首ちゃんがピンピン。
モモこの乳首ちゃんはどんな感じかな…？
アレは、かみ合わせたらどっちがツヨイかな？
想像するだけで、なんか狂ってくる気がする。



「ふくうっ..！」 くもった可愛い声が股の下から聞こえてくる。

うわあ♡ 征服感はんばない!
股ぐらとお尻に密着するモモコの感触がちょー新鮮
だ。
いつもは…今までは、グロッキーになったらそれでも
ワザの練習台にして泣かせたり、フォールのポーズで
終わってた。
レスリングは遠慮なしても、お互いにやっぱりどっか
遠慮(自制)していたのがコレ。「フェイスット」
しかけたら、絶対歯止めが利かなくなっちゃう…
文字通り本能的に、ふたりが避けていたワザだった。

ん…♡ コレ、やばい…!
ぐりぐりしても、しなくても顔面パーツが気持ちいい。
そのうえ、あくあくと動く口が…!
やだ、いっちゃいそう!
腰を浮かせる代わりに開いた股をもっと広げて、
ぐくぐくもって体重をかけていってしまうアミ



「ああん！ ああ、いやあ〜〜！」
「アミアミイ… やったな〜〜！」
わざとこっこふうに呼びかけながら、アミの
股間をわしづかみにする。
「や、やだ！ ももちゃん、や！」
脚をばたつかせて暴れるアミ。
「そう簡単に逃がさないんだから！」

今の今まで、自分の顔にアミちゃんのココ
が…。悔しいのとなんか嬉しいフクザツな
気持ちだ。
ハンドバイブ…！ あそこにあてがった手を
ふるわせてやる。
「ふああ〜〜」
甘い声でよがり声を上げ、悶えるアミ。

一方、責めているももちゃんの方も、抱きかか
えた相手のカラダに押し当てた乳房が、乳
首が知らず知らず興奮してくる。
(あん こすれちゃう…)
ソクソクする快感を打ち消すように、アミの
股間を激しくまさぐり、責め立ててやるもも。





「ああー!」 アミがオルガちゃんに体をふるわせた。しかしモモのほうも、貴めながら密かにしっかり欲情し、アミの声と同時にイッていた。

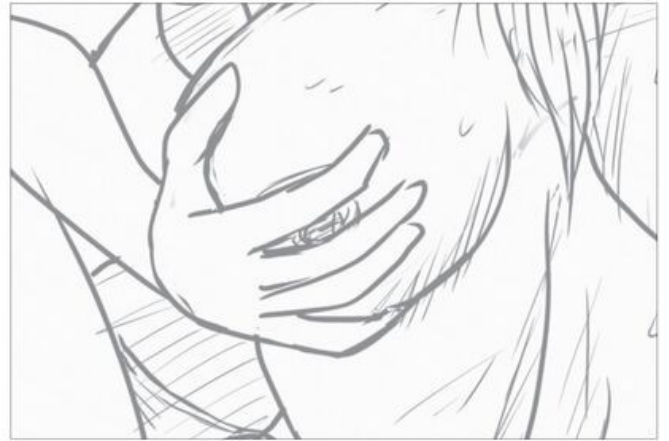


「あ、やん」
「ももちゃん、責めながら自分もいっ
ちゃったらダメじゃん。少しはガマン
しないと…!」
荒い息の下からアミの声がする。
図星だった。
アミの股間を夢中に責めているうち
に、
ももも遠しちゃっていた。
イカされながら、アミはしっかり
もものカラダが絶頂にふるえるの
を見逃してなかった。



イクのも早いけど、回復も早い…あた
しより…
たわなおっぱいを揉みしだかれ、ま
た高まってくる。
おっぱい…こんなに誰かに揉まれたこ
となんてない…。
揉まれていて、乳房がどンドン重くは
りつめてくる。
「ももちゃん、乳房ももうこっぴり!
それ、くりくり~」
「ふああ ひゃあああん!」
小刻みにオルガのふるえが走る。
ふたりともう真っ赤になっていた。

今まで何度もレスリングで相手をほく
れつてきた相手。でも、直接相手に
股間を捕まれたり、おっぱいを揉まれ
たり、…揉んだりしたことなんて、一
度もなかったのだ。



「アミ あみあみい …しいい…
あふ あふ…!」
誰かに、こんなに乳房を揉みまわられたことなんて一度もなかった。乳首をつままれたり、指で挟まれたままおっぱいをもてあそばされるなんて事も、ほんとに初めての経験だ。
●自分で…おっぱい揉むのと全然違う…!
アミの指で揉みも魅されるたび、体中に電気が走るみたい。
いく…いっちゃいそう…!
モモはもう息を荒くし、感じまくっていた。
…当然それは、せめてアミの方も同じだ。
自分と同じくらい、大きな立派なおっぱい。いつか、思いっきり揉んでみたかった。想像以上に揉み甲斐がある..

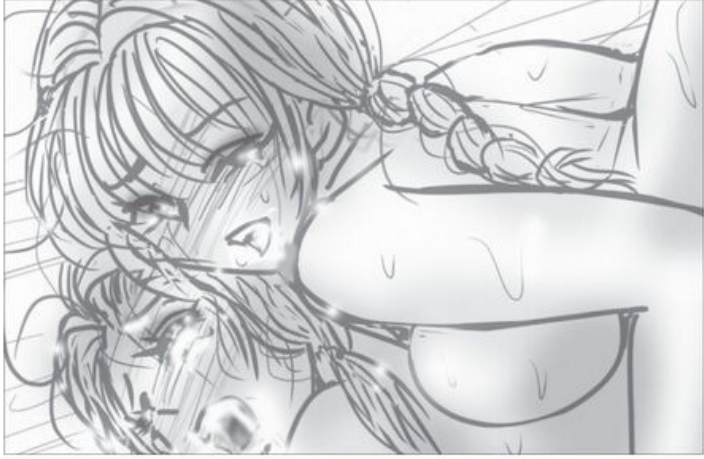


ぐにゅんと、背中にアミアミの乳房が当たっていた。
柔らかな肉増と乳首のカタイ感触、おっぱいを揉まれる感覚、のしかかってくる重さ、アミアミの慰つかい…いつものプロレスごっこでは抑えていた「よこしまな」感覚を全解放した今、全てが肉欲の快楽のつぼだった。



はあ、はあ
モモの股間に片手を伸ばして、そのままぐりぐりと丸いおそこを責め始めるアミ。
「あ、あみちゃん だめ やめ…!」
逃れようとしてあかくけど、ほとんど動けない。
<ほしがってる… …求め、ちゃってるう>
されるがままのモモのカラダの反応に気づいて、アミはゆっくりと相手の股間の丸みやスジを楽しんだ。自分もほとんど無意識にお尻を突き出すように動かして、おそこを相手の腰やお尻にぶつけ、すりつけてしまう。

恥丘をやさしく握りしめてはゆさぶるように責め立て、ワレメにそって指をはわせた。
「ちょっと、ああ ああ」
イヤイヤするように、お尻を振るモモ。
アミの細い指が、少しずつ入ってくる



あああ〜ん
身を震わせ、股間から一気に液体を噴き出すモモ。

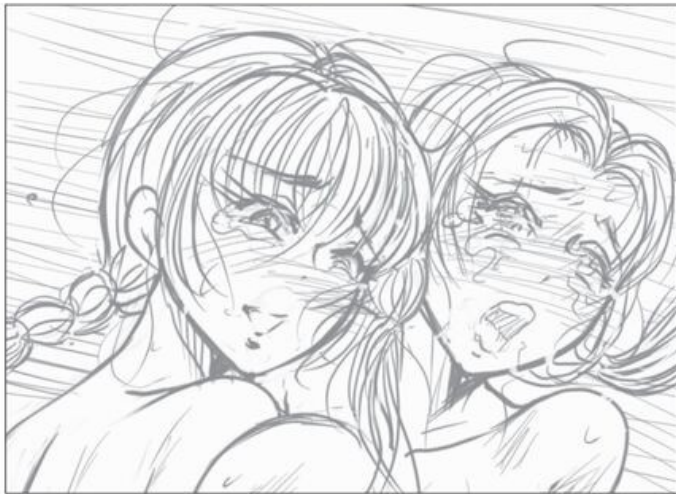


ハア… はあ…ハア…
顔を真っ赤にして、激しく息を
ついている友達の姿を見つめる
アミ。…なんか、すっこく勝っ
た！って感じ？
レスリングで一方的に関節技を
決めて、ヒイヒイ泣かせちゃうの
もすっこくイけど、こんな風に相
手をイかせちゃうって、むっちゃ
気持ちいいじゃん…！
もう、全身が「あたし、このコよ
りツヨイ！」ってかんじ？
おっぱいも、乳首も、あそこも、
何かうずいてきちゃってる…。
体中が、なんかものすっこく喜
んでいた。
本とかで知った「セックス勝負」
…勝ったらこんなに気持ちいい
なんて、思わなかった…！





「あ あみちゃん、ああン アン あん」
可愛い声でよがり声を上げるモモ。
して欲しいこと…してみたかったこと、今日は全部するよ♡
はじめてくわえる女のこの乳首。吸っていると口の中でもっと勃起してくる。
かぶ
「ひいん」
モモの全身が小刻みにふるえた。
あは…乳首だけでもいっちゃうんだ…♡
くわえたまま、あたまをゆっくりふっってみるアミ。
「ああ あはあ ああ ああ」
カラダをのけぞらせて悶えるモモちの反応が嬉しい。



ももちゃん、イキッばなし…♡
今度はどのくらい耐えられるかな

両腕を封じて緊縛状態で責めてみる。
「あ、あみちゃん あみ…ちよっと…少し、
…少し休ませで…!」
首を振りながら、身をよじる。
それでも快感を拒めない。
あたし、もてあそばされてる…

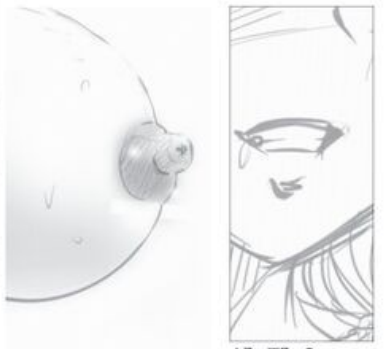




「あふ…あふ…」
激しく息をつくもも。
もう、連続で何回……
イカされてるのに、信じら
れない充実感に身体と心
が満たされてる…。



「ももこお、今度はどこがいい？」
相手の痲痺に当てられて、すっかり上気したアミが随
いかけた。少し息を切らしているが、完全に見下して
る余裕ぶり。



さぞってる…？



あたしにもやらせて♡
「...あ...あ...」
ゆっくりした動きのふたりの肉体が再び近づく。今度はモモが獲物を捕らえていた。こうやって相手のおっぱいを責め立てるのは、モモも初めてだ。アミにしても当然、ついさっきまで新鮮な揉み責めの新鮮な快感を憶えたばかり。
やだ...ちからがぬげちゃう...
知識で知ると、自分がやるのと、実際にされるのは大違いだった。
あらいたい気持ちと裏腹に、体中を気が速くなりそうな快感信号が駆け巡って、反撃どころかそっこと「虜」になっちゃっていた。





あ〜〜! エクスタシーに身をふるわせるアミ。



「なあんた、アミアミもモミモミだけでオルガちゃん?
えらそーにしてるから、少しはこらえてくれると思ったのに…」

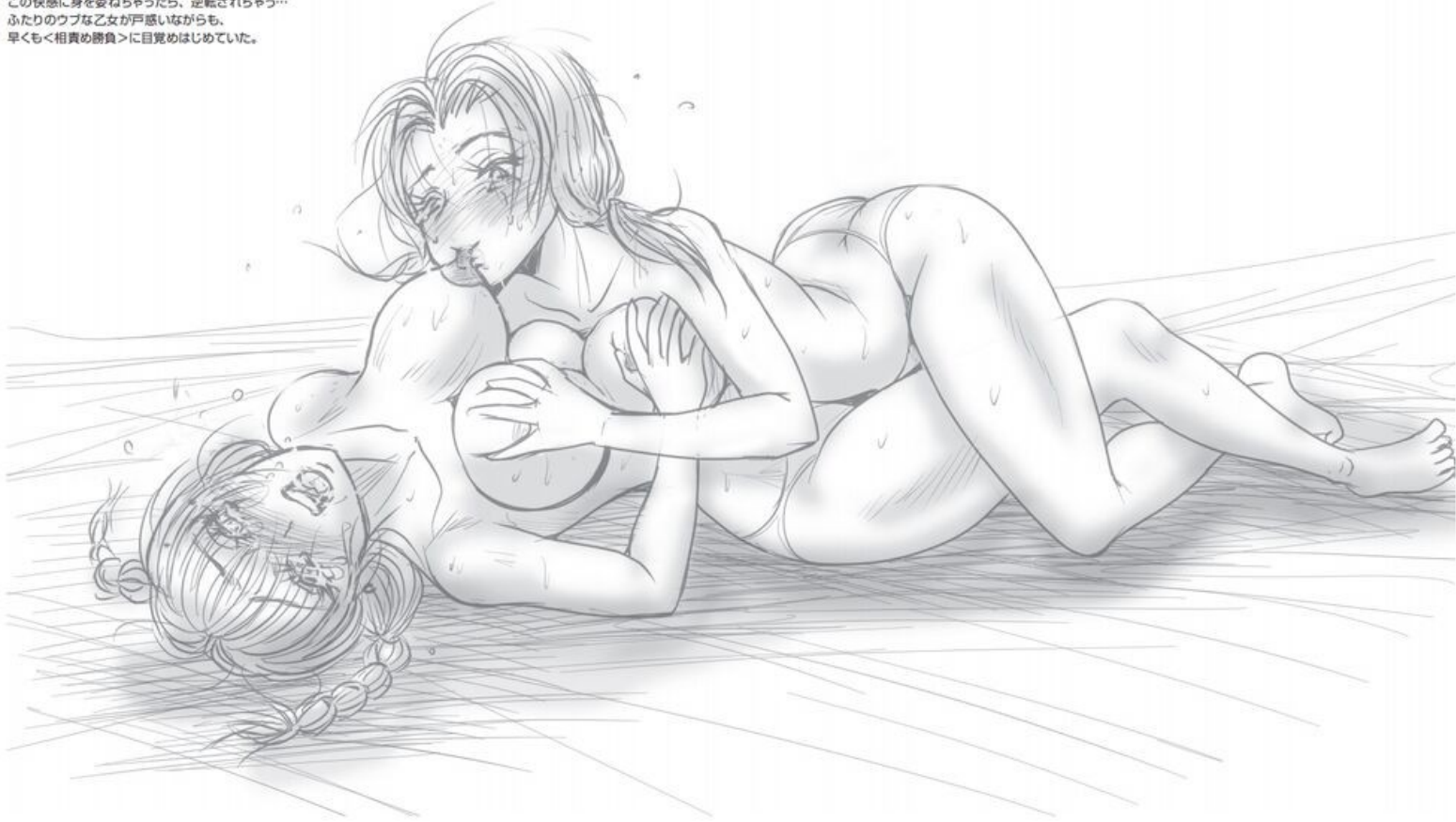


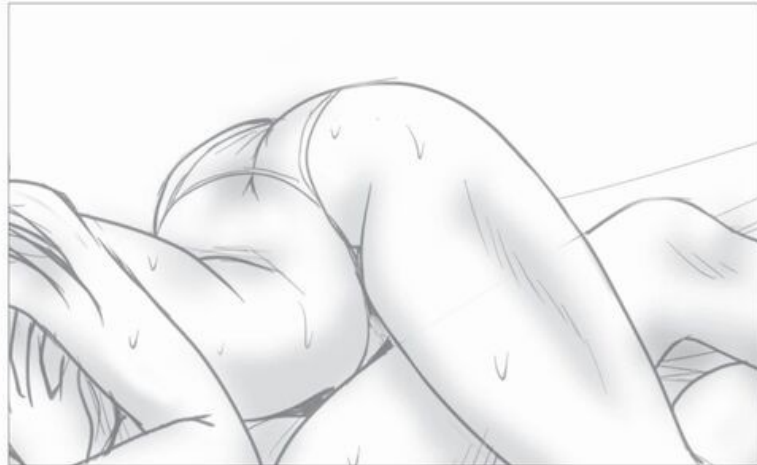
「まあだ♡ にかさない♡」
「ああ、あふ あはあん」
アミの豊かなおっぱいを下から支えるように持ち上げたり、寄せたり…思う存分もみしだしているあいだも、興奮しっぱなしの乳房と乳首。
可愛いよがり声にをますます興奮して責め立てるモモ。アミのカラダがふるえ、股間からまた液体がしたり落ちる。
手玉にとつた相手に、手玉にとられる。嬉しい…でも、どうしてもあらがえない…！



「ももっち…それ、それいや…んあああ〜」
アミが身をのけぞらしてまた激しくあえぎ声を張り上げた。
乳首吸われるってこんなに気持ちいい…
さっきやられてよがり狂っちゃったもん あたしも…
アミの細い指が左の乳房を責めてきてる。乳首をきゅっとされると、
うっかり口を離しそうになるほど気持ちいい。
…まけるもんか♡
いつものレスリングとは違う、もっと、なんかおんなの全てを離け
て戦ってる感じ…

この快感に身を委ねちゃったら、逆転されちゃう…
ふたりのウブな乙女が戸感いながらも、
早くも相責め勝負に目覚めはじめていた。

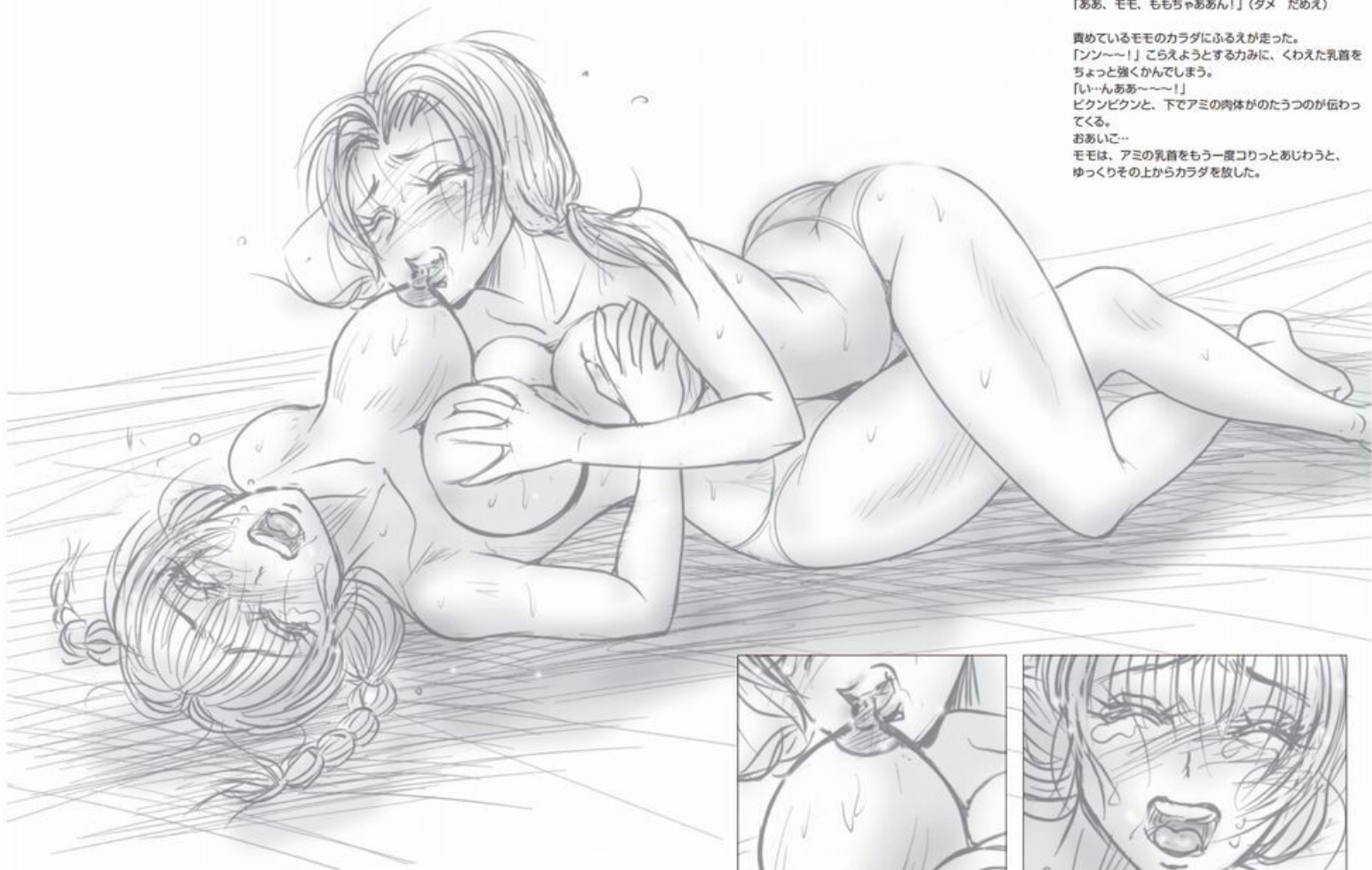




「んん… んん〜」(イキそう…)
「ああ、モモ、ももちゃああん!」(ダメ だめえ)

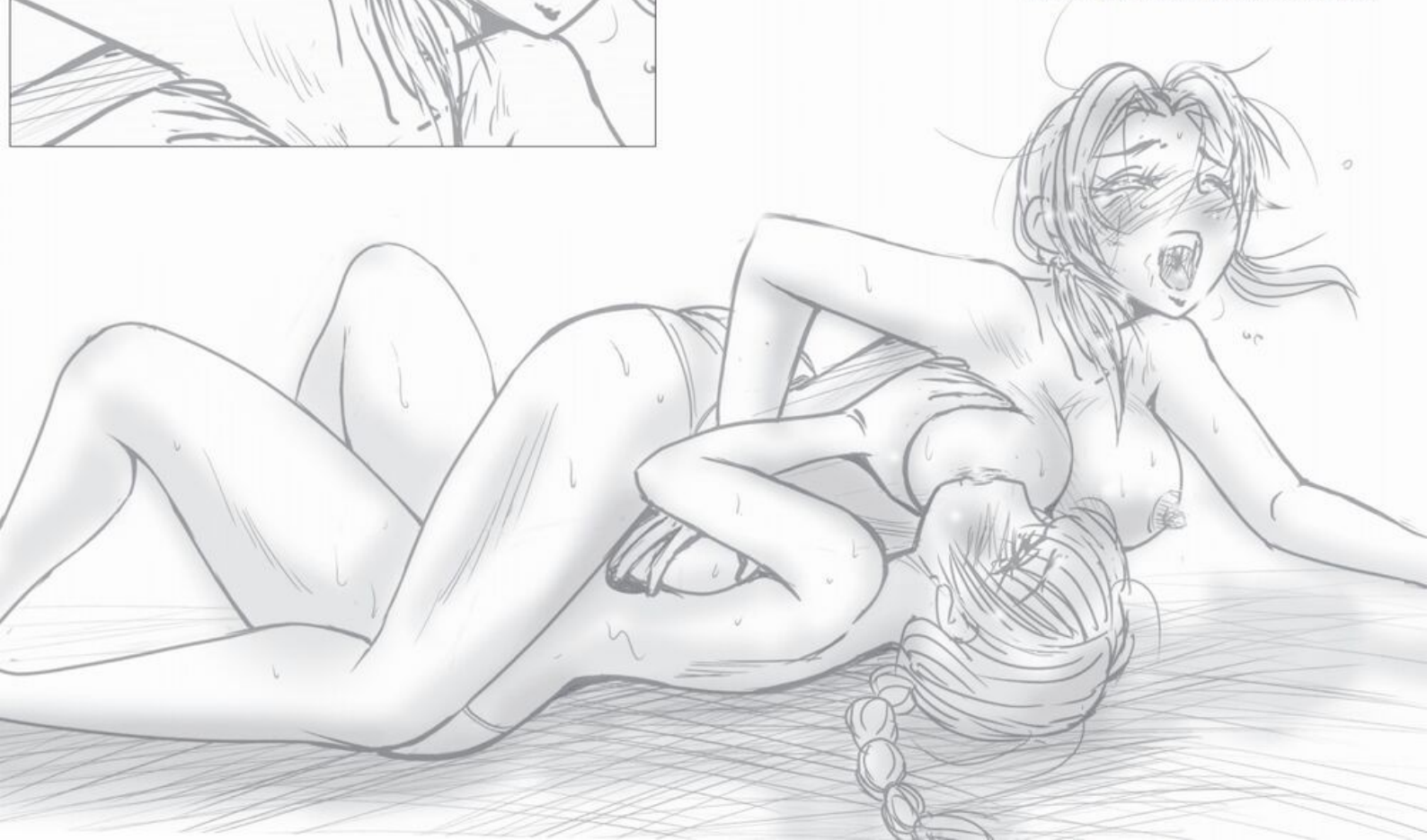
費めているモモのカラダにふるえが走った。
「ンソ〜!」こらえようとする力みに、くわえた乳首を
ちょっと強くかんでしまう。
「い…んあぁ〜〜!」
ビクンビクンと、下でアミの肉体がのたうつのが伝わ
てくる。

おあいご…
モモは、アミの乳首をもう一度コリっとあじわうと、
ゆっくりその上からカラダを放した。





モモがどうするのをアミは見のがさなかった。下になったまま、
モモのどがった乳首に吸いてやる。
「やだ、や、あみちゃん ああん！」
ダメ、力が…
小さなオルガとはいえ、ふたりとも驚くほど回復が早かった。
そして、イクほどに…イカされるほど、なんかピンカンになってくる…
肉体が徹底的に交尾したがるウロボロスモード
ふたりは、一種のゾーン状態、エロバーサクモード入りつつあった。



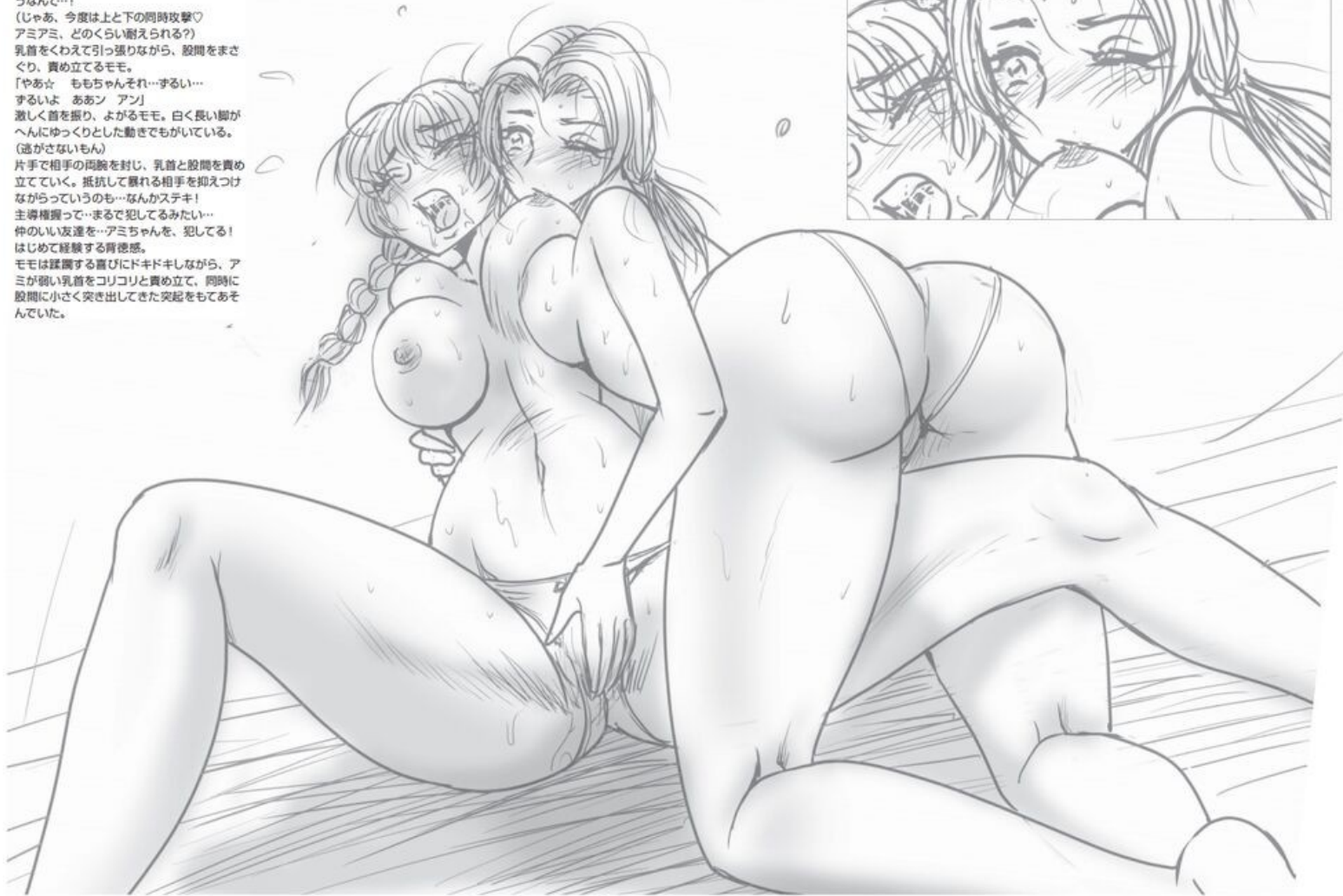


「あ、あみちゃん!!」
オルガスムスの絶叫に、相手の名を叫ぶモモ。



うふふ…さあ、
こんどはあたし…
再びのマウントを確信して、
舌なめずりをするアミ。

「ア〜あ、あ！」
続けて責めに回るつもりが、逆につかまっちゃ
うなんて…!
(じゃあ、今度は上と下の同時攻撃)
アミアミ、どのくらい耐えられる?)
乳首をくわえて引っ張りながら、股間をまさ
ぐり、責め立てるモモ。
「やあ☆ ももちゃんそれ…ずるい…
ずるいよ あおん アン」
激しく首を振り、よがるモモ。白く長い脚が
へんにゆっくりとした動きでもかいている。
(逃がさないもん)
片手で相手の両腕を封じ、乳首と股間を責め
立てていく。抵抗して暴れる相手を抑えつけ
ながらっていうのも…なんかステキ!
主導権握って…まるで犯してるみたい…
仲のいい友達を…アミちゃんを、犯してる!
はじめて経験する背徳感。
モモは蹂躞する喜びにドキドキしながら、ア
ミが弱い乳首をコリコリと責め立て、同時に
股間に小さく突き出してきた突起をもてあそ
んでいた。





「はうッ……」
小さく叫び声が上がると、ぶしゃあっとばかりに激しく液体を
噴き出すアミ。
今まで以上にビクビクと激しくカラダをふるわせている。



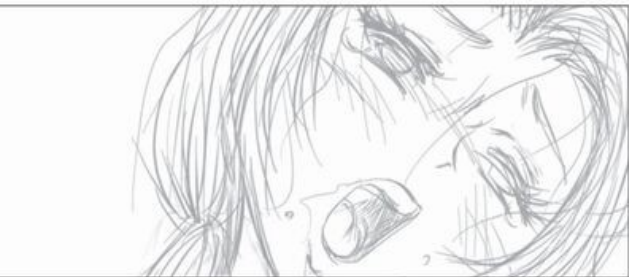


69-しっくすないん
近スリングやセックスバトルの試合や記事では、必ず取り上げられて
いる体位だ。先に声を上げた方がマゲとか、逃げ出した方の負けとか、
いろんなルールがあるらしい。
「負合わせ」に並ぶ、相責めバトルの定番…
「気持ちよくなって、でも、気持ちよぶに耐えながら、相手をイカせちゃう
と、すっごい気持ちいいの」。
勝者のインタビューが頭をよぎる。

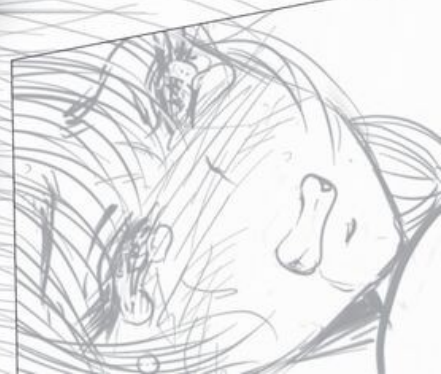
こんなのがまんできない〜！
相手のくちびるや舌があそこに触れるだけで、
頭がしびれるくらいの気持ちいい刺激。
ふたりは申し合わせたように、
互いをぎゅっと抑えつけた。

互いに、考えていることは同じだった。
アミは、モモのお尻の下で、今か今かとその時を待っていた。





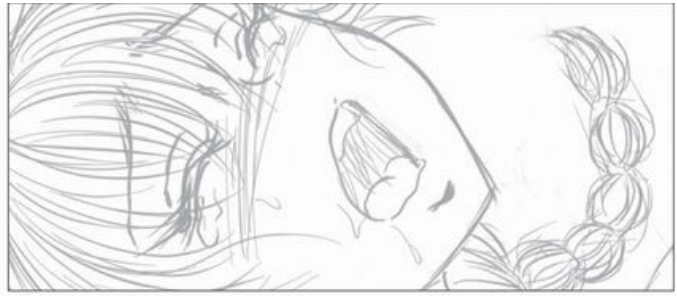
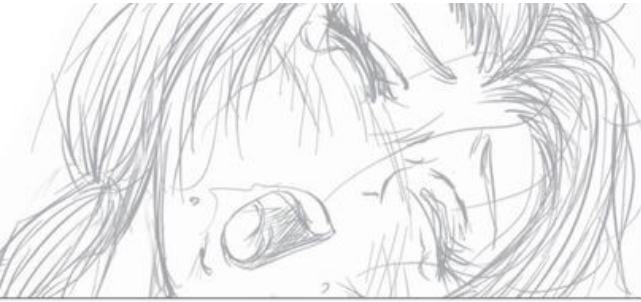
「ふああ〜！」「ああん あん！」
こらえきれずうめき声を上げるたびに、攻撃がとまる。
そのチャンスにどんたみかけていくが、相手も黙ってやられていない。割れ目ちゃんの間や、突起を責められて今度はこっちがよがっちゃう。
やがて、互いに少しずつ刺激になれてくると、音はピチャピチャというなめる音や、ちゅっちゅと言っただけが響く、寡黙な闘いになってきた。
時々、相手がぶるっと震え、小さく喚き出すしぶきが顔にかかる。やった、と思うと同時に、今度は自分にケイレンが走り、びゅっと液体をもらしてしまおう。

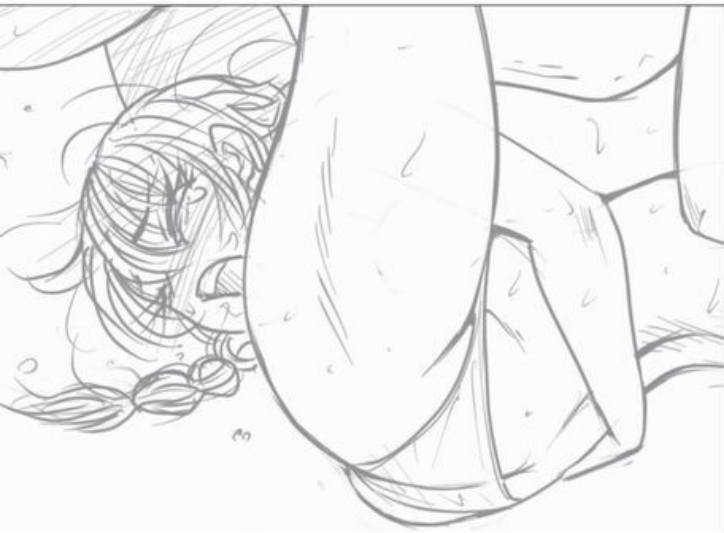




すごい…これが…
オトナのイカせ合い勝負…!
局部をなめ回され、とがった舌がワレメに入っ
てくる。こらえているだけでも、なぜか涙が出てくる。
気持ちよくて死んじゃいそう…!
お互いにそう…おあいごなんだから…!
まけるもんか…
夢中になって、相手の性器にむしゃぶりつき合う
ふたり。







ん、うん ん…
あふう ああん
示し合わせたように、ふたりに大きなオルガ
スムスが訪れ、それを合図にするように、ゆっ
くりふたりのカラダが横倒しになる。

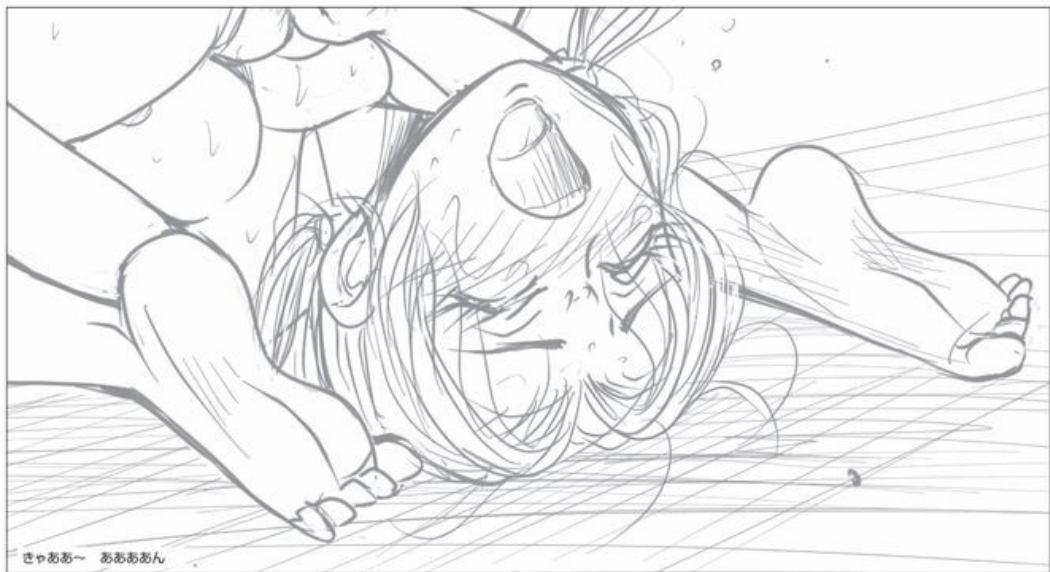
「あん〜〜」(やば…また…!)
襲い来るアクメの波を、大きな口を開けて必
死にこらえるアミ。ぎゅっとふとももで、モモ
の頭をしめつける。

「んん〜〜」(やん やだ…)
密着し、あそこにモモの三つ編みや、あこが
れるだけでイキそう…
モモも同じように、今にもイキそうになるの
を必死にこらえていた。

よーし！ 今度はあたしがマウント…
「ひゃん！」可愛い悲鳴を上げるアミ。
一定早く、モモが責めに出ている。
今までとは違う体制からの刺激に戸惑うい、責めよ
うとしても、新しい快感に動きがとまっちゃう..!
それどころか、相手の顔に股間を押しつけていっ
ちやう自分がいる…
(ああ…だめ…求めちゃってる…)



アミってば…あそこ押しつけて来るじゃない… そんなら…
<かぶ あむ>
「ひゃあん あ〜 あん あん あん！」
舌とくちびるに攻撃されるたびに声を上げ、ピクンピクンとアミの肉
体が反応する。
69での「負け」サイン。
そう、求めちゃうほうが、後は一方的に責められて…
アミアミ！ アミアミ！ アミアミ！ 心の中で叫びながら責め立てる
モモ。
「ふああ！ モモ…モモちゃん、あ、あ…あ…」このままじゃ…このまま
じゃ…！ アミは必死に耐えながら、この体勢からの反撃を探していた



今までとは比べものにならない軽さだった。
互いのあそこに、指を突きたてて責め合うモモとアミ。





「やああ〜 い、入れちゃだめ いれないでえ！」
「ああ〜 ダメ だめえ アミッ アミあ〜」
互いに泣き叫び、うったえ合いながら、責め合う2人。
アミもモモも、どちらもう、この体勢にガマンできず
逃げようとしていた。しかし、お互いが相手を逃がす
まいと片手でしっかり抑えていた。

「あ…また…~~~~~!!!!」
アミがカラダをふるわせた。
「あ☆ あ〜ん!!!!」
まるですぐ後を追うように、モモがけぞりながらケイ
レンする。
五角の腕というより、相打ちを繰り返すふたり。

「はあ、ああ、あみっ…あみあ もう、もうやめ…」
やがて、モモが首を上げた。
股間をモモのアゴに押しつけながら、口で責め続けるアミ。
突き出したモモのツノを舌でもてあそび、軽くくわえて引っ張る。
「ひあああ ひあ ひい〜」
体中を快感信号が狂ったように駆け巡り、そのたびにイチャウ感じ…
顔がじんとしびれて、ホントに、何も考えられない
その間も、間断なく甘い刺激が駆け巡る 拷問だった。



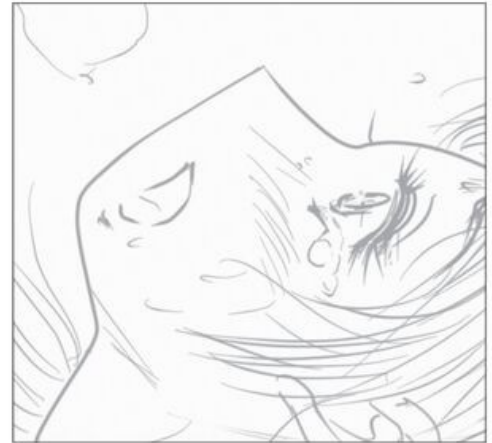


アミのあそこがグイグイあごを押してくる。
責めながら、まだシテいるのだ。
「ぎぶ…! ぎぶあっぶう〜! アン あん ああ〜!
ほかに言葉が思い浮かばない
やめて欲しくないけど…これ以上されたら死んじゃう…
モモはいつのまにかずっかり心が折れていた。





「はあ、はあ、はあ… えへへ あたしのかち！」
相手の頭に馬乗りになって、ぐりぐりとお尻をおしつけてやる。
「んん～ ……！ ……！！」お尻の下で、なにが言ってる。
脚をばたばた…というよりも、力なく、ホントに苦しげに脚がもがいている。
おろした手のヒラに触れる、柔らかな肉のふくらみをぎゅっと握ってみる。
「~~~~！」
もがいても、はね返す力がない。むしろ、もがく肉体の動きが伝わってきて、
それがすっごく気持ちいい。



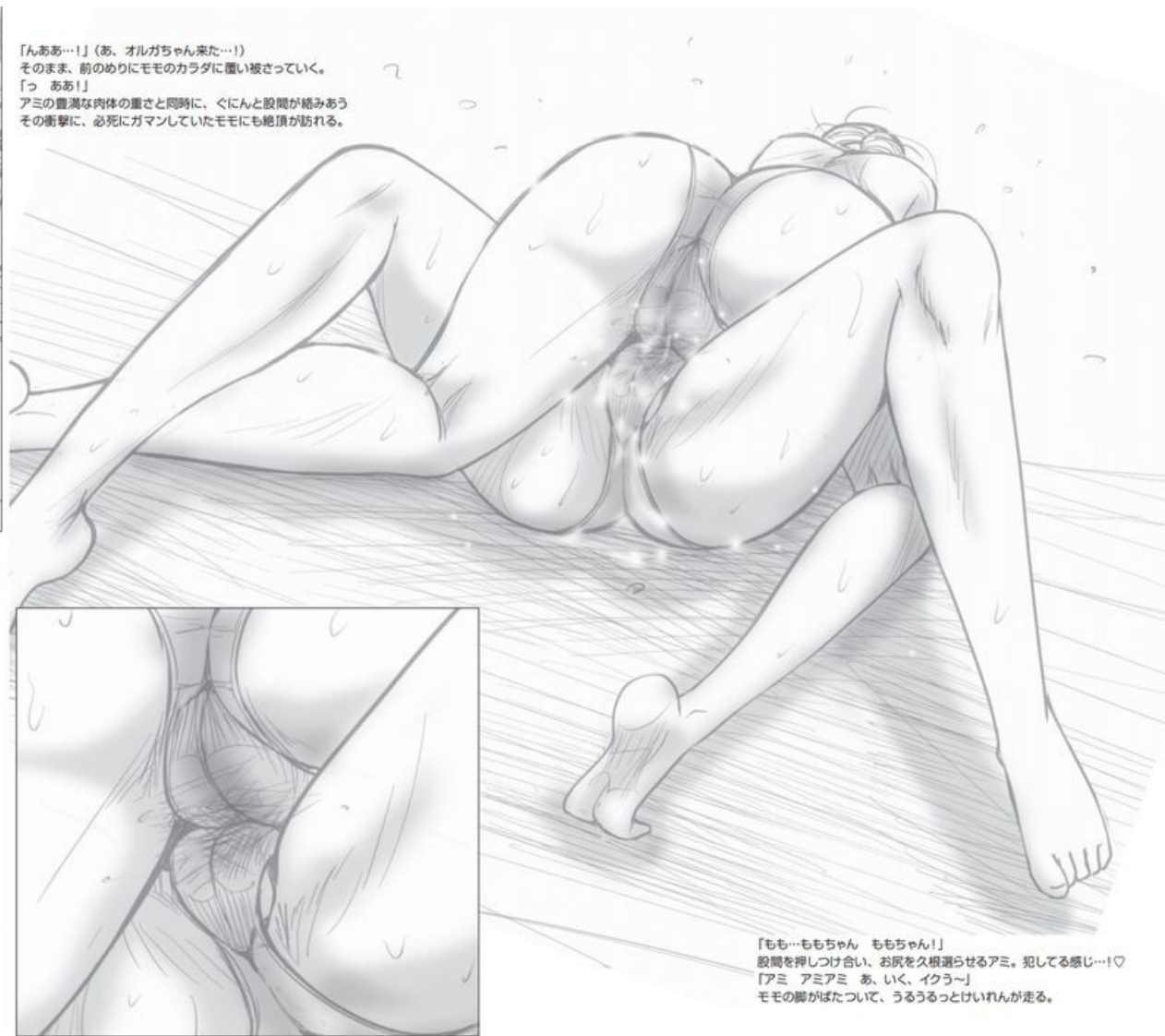
「ももちゃん、つざいごーか…♡」
ドミネートモードは、2人の間では普段からアリ。
やりたい放題やってるうちに、逆に脱出不能ワザをかけられて、失神しちゃっ
たことも何度もあるふたりだった。
ぜんぶ、なんでもあり…
むしろ、これからがホンバン
高鳴る胸の鼓動にアミは舌なめずりをして、お尻を相手の顔から離した。

「ん、ん……ん…」
「あ～ ああ～」
腰をいやしくくねらせて、自分の股間をあいての股間にこすりつける。ほてったあそこの肉と肉がぎゅっちりかみ合っていた。おまんこどうしが、力比べのようにせめぎ合う。
「ん…あたし…いっちゃんさう…」歯を食いしばるモモ。しかけてみたものの、やっぱり実際にやってみるとこの感じは、ひとりHとはもう比べものにならなかった。





「んああ…!」(あ、オルガちゃん来た…!)
そのまま、前のめりにモモのカラダに覆い被さっていく。
「っ ああ!」
アミの豊富な肉体の重さと同時に、ぐにんと股間が締めあう
その衝撃に、必死にガマンしていたモモにも絶頂が訪れる。



「もも…ももちゃん ももちゃん!」
股間を押しつけ合い、お尻を久根蹴らせるアミ。犯してる感じ…!♡
「アミ アミアミ あ、いく、イクら〜」
モモの脚がばたついて、うるうるっけいれんが走る。



はあ、はあ、はあ…
モモちゃん、グロッキーかな？
股間を重ね合ったまま、腰を振って
挑発するアミ。
「あふ…あふ…あ…」
だらしない仰向けになって、モモは
激しく息をついていた。

アミアミのあそこがのしかかてる。
ぐりぐりしてくる感触が気持ちいい。
体力にほとんど差はないはず…
Hが強くて、こういうこと？
ああ、気持ちいい…
休みながら、いろいろな思いがめ
ぐっていた。
また、のしかかってくるかな？
いいわよ、さで…
勃起したままの乳首が、またうすき
始めた。



むにゅと、アミの股間で「敵」が反撃してくる。



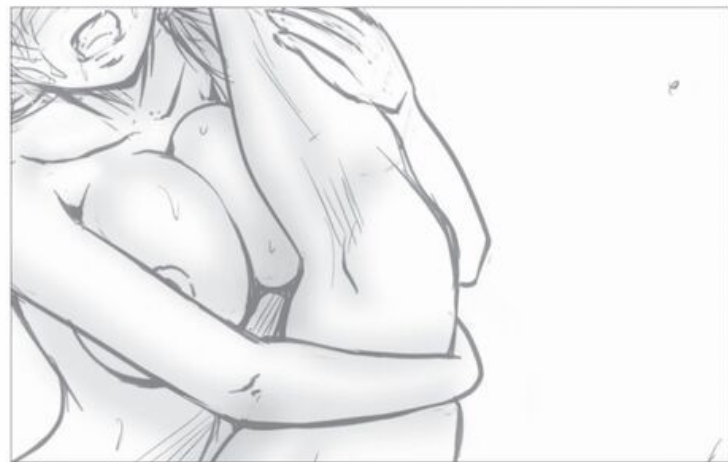
そうこなくっちゃ… カラダを揺さぶり、おっぱいがブルブルと弾む。







「ん……！ アミちゃん、しょうぶ……！」
「う……ウン……！」
互いに片手でカラダを支えて、股間を突き出すふたり、
おっぱいが重たく揺れる。
乳首の先までしびれるような刺激に、アミは思わずイキそうになっ
た。しかけたモモは瞬間でいっちゃったのか、カラダを小刻みな
ふるえが襲ったのが、くっつけた股間に響いてくる。
「うんウンうん」「ん、んん！ んん！」
互いの腰を上下にふる動きに、ふたりのおっぱいが上下に波うった。





うあ…
しかけているモモが身を震わ
せた。しかし、そのまま腰を
振り続ける。

「……あ ひ あひ アヒっ も…ももちゃあ..」
身をよじって逃れようとしたのが、むしろアダになっている。
ひとゆすり、一挙動ごとに、押しつけられるたびに、体を小刻
みにふるわせるアミ。イっちゃう..いっちゃうう… 小さなオ
ルガとはいえ、連続オルガの嵐 首を振って、それでも必死に
アミはこらえていた。

「ん、んん ううん、ウン ウウン…！」
抱えたアミの脚をウンウンと抱え上げる
ようにしながら小さく腰を振り、そして
カラダをねじって、自分の股間を相手の
股間にねじ込むように責め立てる。
しかける方も、しかけられる方も、もう
何度も小さなオルガを迎えている。



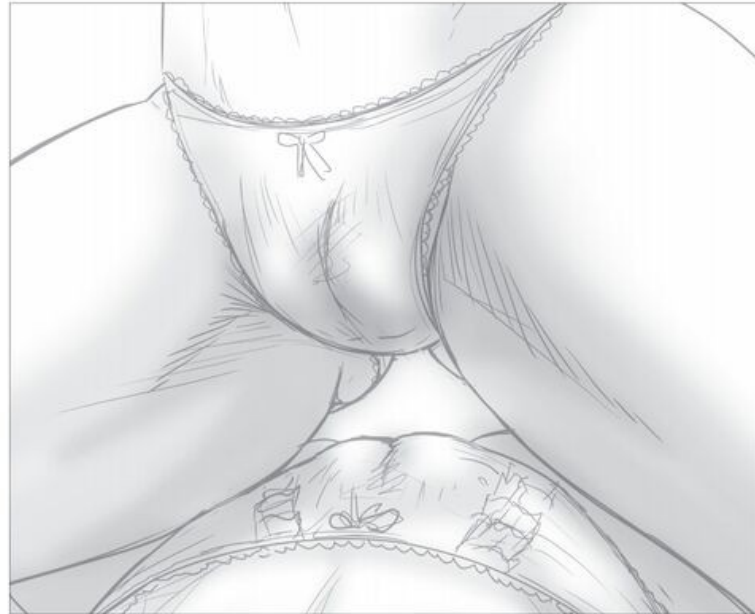
「あ、あ…もう もうだめえ〜！
もも..モモちゃん ぎぶ、ギブします あ、ああん」
「快感の責め苦」にこらえきれず、懇願するアミ。
「もう..！ これ以上は..だめ..たすけて..！」
さっさの69では..モモがあたしの下で泣き叫んでた
…今なら..わかる..う。もう、お願いだからもうやめて..！
セックス勝負で白旗を掲げるのが、こんなに悔しいな
んで..でも、こんなに ああ、もうこれいじょうだめ
お願いあたしの負け..！
「ひい、ひいい……」自分の悲鳴が情けない…友達に疎
視され、泣いて許しをこうなんで…
イカされまくって失神…、それがもう目の前に迫った時、
ようやくモモはアミを解放した。





も一回回イっちゃったかわかんないけど、
まだやれそう…
1人でしてるときは、多くても2~3回達
したら満足しちゃってた…
アミアミとだからかな…なんか、やればヤ
ルほどたぎるって言うか…
燃えるわ…

ハアハアと、つく息が熱い。
うんどーだけのせいじゃないが…
目の前の、馬乗りになったアミアミの全
身から、何か理性を狂わせるような淫ら
なオーラがむんむんしてる感じ…





「…！ っ。」
股間に熱く、柔らかな感触が押し当てられるのを感じ、アミが小さく悲鳴を上げてのけぞった。



「…ん…んん…」
ゆっくりと下半身を前後にすらし、そしてまわすように、上になったお尻がうねる。股間で股間を愛撫…



しかし、実際はそんな余裕のあるものでは無かった。
重ね合わせた瞬間、カラダを貫く激しい刺激。想像以上の新鮮な快感に、モモは一瞬悲鳴を上げそうだった。

でも…やっぱりステキ…
さあ、犯しあいよ…アミ…





「ん ああ！」
「はああ…! ああん」
ふたりのあえぎ声とうめき声が響く。
気持ちいいんだもん あ いい…!
一心に腰を動かして股間の喜びを楽しむモモ。
2人の白い乳房がうにょろにょろと別の生き物のように乱れ、暴れる。

「くあ アア アア!」
やだ、気持ちいい いい
..けど こんな… される
ままに.. 善んじゃうなんてえ
〜
「自分がする」という主導
権をもってやるのと、主導
権を奪われてされるのでは、
全然違う。せめて、相手より
先にイクのだけは…!
必死にガマンするアミアミ。



友達同士が繰り広げる果てしない相責めのシーソーゲーム。
ああ、とまんない… 触れあったところがうずきあってる…
もお、Hのデスマッチ…
さ、い、こ、お…
時間を忘れ、いつまでも楽しい夢のような肉欲の宴。
今まで想像さえできなかった「永遠の刹那」に酔うふたり。
エンドレスの「幸せな」時間が続いていた。

つづく



萌えレス 24

死闘メガネっ娘
地味ッ娘 秘めレスリング 2
はじめてのせっくす勝負 -前編-

2020.07 PDF発行
© Meto

不許複製 アダルト指定 (R18)

萌えレス 24

アマゾニア・ワールド



死闘メガネっ娘

地味ツ娘

秘めレスリング 2